

# 内部質保証最終報告

研究部会

令和4年度内部質保証 目標、計画シート 教育研究推進委員会

委員会・組織名 生命医学研究所運営委員会

中間責任者②（部長・委員長等）氏名 木梨 達雄

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で、文末は「だ・である」調に統一）	教育研究推進委員会 による点検・評価
<p>目標 ・計画</p>	<p>（文字1,000字以内：要望。①新中期計画、②令和4年度事業計画、③令和3年度最終報告課題、④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）、⑤機関別認証評価受審結果の課題、⑥自己点検評価委員会からの指摘事項）</p> <p>[分子遺伝学部門]</p> <p>①学内・学外で連携研究のシーズの開拓と推進を図り、競争的資金獲得と論文投稿を目指す。</p> <p>②学部・大学院教育、競争的研究資金獲得と研究の推進。（目標：新規課題2～3件、論文投稿数5報）</p> <p>③科研費6件、AMED2件、JST1件を獲得、KMUコンソーシアム1件採択。国際誌4報、国内学会発表4件。</p> <p>④昨年度の成果をもとに引き続き教育、研究業務の目標を設定する。</p> <p>[生体情報部門]</p> <p>①学内・学外で連携研究の推進を図り、競争的資金獲得・論文投稿を目指す。</p> <p>②本学における研究活動の活発化・高度化を推進する。（目標：外部資金新規獲得1～2件、国際誌発表2報）</p> <p>③科研費3件、国際誌2報、国内学会・研究会発表6件。</p> <p>④外部資金獲得に直接結びつけられるよう、より高度なレベルで研究を推進する。</p> <p>[モデル動物部門]</p> <p>①疾患モデル動物の開発を進め、学内外の基礎・臨床研究連携を推進する。</p> <p>②学部・大学院の教育、研究の推進（目標：研究資金獲得1件、学術誌投稿2報）、研究支援体制の維持・発展</p> <p>③研究資金獲得（科研費6件、他研究助成2件）、学術論文（原著5報、総説8報）、学会発表（3件）</p> <p>④研究資金の獲得、研究成果発表と共に、疾患モデル動物の開発および動物実験に関する自己点検、外部検証に対応する。</p> <p>[神経機能部門]</p> <p>①基礎・臨床研究連携、産学連携研究の推進を図り、競争的資金獲得と論文投稿を目指す。</p> <p>②AMED-CREST、基盤Bなどの研究を進める。（目標：外部資金新規獲得2～3件、国際誌への論文投稿2報）</p> <p>③外部資金として、科研費・基盤B 2件、AMED 橋渡し preB、AMED-CREST を新規獲得。国際誌に原著論文3報掲載、1件の国際特許出願を行った。日本神経科学大会 CKJ 国際会議の Symposium をオーガナイズ。招待講演3件、学会発表4件を行った。</p> <p>④引き続き感覚刺激が誘導する潜在的な生命保護作用の作用機序に関する解明を進めると共に、臨床実用化に向けた共同研究を実施する必要がある。</p> <p>[侵襲反応制御部門]</p> <p>①基礎・臨床研究連携による研究シーズの開拓と推進</p> <p>②学部・大学院教育、競争的資金の獲得及び共同研究体制の強化（目標：新規課題2件、国際誌への掲載3報）</p> <p>③科研費6件、KMU 研究コンソーシアム1件、学内助成2件、国際誌11報、国内誌3報</p> <p>④臨床応用を見据えた研究基盤技術の更なる発展</p> <p>[ゲノム解析部門]</p> <p>①国内外の優秀な研究者と共同し、最先端の研究ならびに産学官連携を推進する。</p>	<p>令和4年5月9日開催委員会にて承認</p>

	<p>②学部・大学院教育、オミックス解析の推進。(目標: 外部資金1件、論文4報、オミックス解析300検体)</p> <p>③科研費2件、AMED2件、KMUコンソーシアム3件の採択。国際誌10報、書籍2報、学会発表10件。311検体のオミックス解析を実施。</p> <p>④共同研究課題が増加傾向にあるため、効率化を目指す。</p> <p>[ゲノム編集部門]</p> <p>①学内研究の高度化を推進することにより、Top10%論文の発表に寄与する。</p> <p>②ゲノム解析等で得られた情報をもとに、ゲノム編集を用いて生体レベルでの疾患メカニズムを解明する。(目標: 外部資金獲得2件、論文掲載1報、学会発表2件、ゲノム改変動物及び細胞株樹立目標数10系統)</p> <p>③外部資金獲得1件、査読誌への掲載2報、学会発表1件、ゲノム改変動物及び細胞株樹立数15系統樹立。</p> <p>④さらに研究の推進力を上げるために、大型研究費の獲得および研究員の確保を目指す。</p> <p>[がん生物学部門]</p> <p>①国内外から優秀な研究者を確保、学内外の基礎・臨床との共同研究を推進し、競争的資金獲得と論文投稿を目指す。</p> <p>②学部・大学院の教育業務を行い、学内共同研究に着手し、がん微小環境の制御機構の解明につながる研究を推進する。(目標: 外部資金新規獲得3件以上、国際誌への論文発表2報以上)。</p> <p>③科研費課題1件(継続代表1件)、AMED課題3件(継続代表1件、継続分担2件)、財団助成金2件を獲得。国際誌への原著4報、和文総説1報を発表し、国内学会発表4件。</p> <p>④新たな研究資金の獲得を目指す。また、研究を行う人員の確保のため、学生のリクルートを積極的に行う。</p> <p>*⑤機関別認証評価受審結果の課題、⑥自己点検評価委員会については各部門該当なし。</p>	
<p>中間 報告</p>	<p>[分子遺伝学部門] 科研費課題5件(新規1件、継続4件)、AMED課題2件(継続代表1件、継続分担1件)、財団研究助成金1件、学内助成1件を獲得し、国際誌に1報(総説)を掲載した。</p> <p>[生体情報部門] 科研費課題3件(継続3件)を獲得すると共に、学部におけるリサーチマインド・実践セミナーや大学院技術シリーズ等を通じて本学における研究レベルの底上げに取り組んだ。</p> <p>[モデル動物部門] 科研費(新規1件、継続3件)、研究助成(新規2件)を獲得し、学術誌に4報(英文原著1報、和文総説3報)を掲載した。</p> <p>[神経機能部門] 外部資金として科研費7件(新規代表2件、継続代表4件、継続分担1件)、AMED1件(継続代表1件)、財団研究助成金1件(新規代表1件)を獲得した。臨床講座との共同研究成果が国際誌に in press となるとともに、国内研究会での招待講演を2件(がん代謝研究会、味と匂い学会)、国内学会での成果発表を1件(日本神経科学大会)行った。</p> <p>[侵襲反応制御部門] 科研費6課題(新規2件、継続4件)について研究を遂行し、国際誌(原著論文3報、症例報告1報)に論文を掲載した。</p> <p>[ゲノム解析部門] 研究医養成コース、ゲノム医科学分野修士課程等による学部生・大学院生への教育に努めた。科研費課題5件(継続代表1件、新規分担3件、継続分担1件)、AMED課題1件(継続分担)を獲得し、国際誌に1報の原著論文を掲載した。学内外機関との共同研究を進め535検体のオミックス解析を実施した。</p> <p>[ゲノム編集部門] 研究費課題3件(新規2件、継続1件)を獲得し、国際誌に2報を論文発表した。ゲノム改変動物及び細胞株を5系統樹立した。</p> <p>[がん生物学部門] 科研費課題1件(新規2件、継続1件)、AMED課題3件(新規分担2件、継続分担1件)、財団研究助成金2件を獲得し、国際誌に1報(原著)を掲載した。</p>	<p>友田学長承認済</p>
<p>最終 報告</p>	<p>[分子遺伝学部門] 科研費課題5件(新規1件、継続4件)、AMED課題2件(継続代表1件、継続分担1件)、JST課題新規1件(代表)を獲得、KMUコンソーシアム課題2件(分担)、大阪大学との包括連携に関する協定に基づく共同研究1件(代表)に採択された。国際誌に2報(原著論文)を掲載するとともに、国内学会5件(日本分子生物学会、日本生化学会、日本免疫学会)、国際学会1件(Gordon Research Conference)で成果発表を行った。</p> <p>[生体情報部門] リサーチマインドの実践セミナーや、修士講義・大学院共通コースならびに技術セミナーなどを通じて、学部生・大学院生への教育に努めた。研究に関しては、外部資金として文科省科研費3件(継続代表2件・継続分担1件)に採択されたほか、国際誌に2報原著論文を掲載すると共に国内学会・研究会(日本分子生物学会・日本免疫学会・KTCG・先端モデル動物)で4件の発表を行った。</p> <p>[モデル動物部門] 本学の動物実験に関する自己点検・評価に協力・対応した。学内外共同研究を進め、外部研究資金(科研費: 新規1件、継続3件、研究助成: 新規2件)を獲得し、学術論文発表(英文原著2報、英文総説3報、和文総説4報)及び学会発表(国内学会3回、国際学会5件)を行なった。また、学術論文査読(9件)、学術論文編集(11件)、科研費学内事前査読(3件)、関西医科大学医学会審査委員を行なった。研究技術シリーズ、リサーチマインドの実践、大学院共通コース及び免疫学講義等による学部生・大学院生への教育、入試業務を務めた。また、日本実験動物学会奨励賞、IGIS2022 Travel Awards 及び加多乃賞を受賞した。</p> <p>[神経機能部門] 外部資金として科研費7件(新規代表2件、継続代表4件、継続分担1件)、AMED1件(継続代表・AMED-CREST)、財団研究助成金1件(新規代表1件)を獲得した。救急講座との共同研究成果を含め国際誌に2報の研究成果を掲載するとともに、国内学会での招待講演を5件、国内学会での成果発表を1件行った。また、当部門の「人工冬眠・生命保護に関する研究成果がNHKのサイエンスZEROで放映されるなど、研究成果普及にも努めた。</p> <p>[侵襲反応制御部門] 研究資金として科研費課題7件(新規代表1件、新規分担2件、継続代表2件、継続分担2件)、学内研究助成1件を獲得した。国際誌への9報の原著論文掲載、英文書籍への分担執筆</p>	<p>令和5年3月29日開 催委員会にて承認</p>

	<p>1報、和文書籍への分担執筆1報等の成果をあげた。研究医養成コース履修者の研究成果について学長賞が授与された。</p> <p>[ゲノム解析部門] 研究医養成コース、病因と病態、リサーチマインド実践、大学院共通コース、ゲノム医科学分野修士課程等による学部生・大学院生への教育を遂行した。科研費（代表1件、分担4件）、AMED（分担2件）、KMUコンソーシアム（代表1件、分担1件）、学内助成1件を獲得し、国際誌11報の掲載、学会発表6件を行った。学内外との共同研究において、計1,178検体のオミックス解析を実施した。</p> <p>[ゲノム編集部門] 今年度は、外部資金獲得3件(科研費 基盤C継続代表1件、基盤C新規分担2件)、査読誌への掲載6報、学会発表1件(日本薬理学会)、ゲノム改変動物及び細胞株樹立数 14系統を達成した。</p> <p>[がん生物学部門] 外部研究資金として科研費課題3件（新規2件、継続1件）、AMED課題3件（新規分担2件、継続分担1件）、財団研究助成金4件、東京大学医科学研究所国内共同研究1件、金沢大学がん進展制御研究所共同研究1件、学内研究資金としてKMU研究コンソーシアム課題1件（代表）、大阪大学連携協定共同研究費（代表）を獲得し、国際誌に5報（原著4・臨床講座との共同研究1報を含む、総説1）を掲載し、国内学会発表を8件行った。また、国際大学院博士課程学生1名、研究員1名を受け入れた。</p>	
<p>自己 評価</p>	<p><b>成果</b></p> <p>[分子遺伝学部門] 目標をほぼ達成することができた。</p> <p>[生体情報部門] 教育・研究の両面において、当初の目標を概ねクリアすることが出来た。</p> <p>[モデル動物部門] 実験動物飼育共同施設の円滑な運営に貢献した。また学内外共同研究成果を多数公表することとなり、当初の目標を大きく超える成果となった。疾患モデル動物を用いた研究活動が高く評価され、各種受賞・学術誌 Editor 着任となった。</p> <p>[神経機能部門] 研究資金の獲得、研究成果の発表等に関し、当初の目標以上の成果が得られた。</p> <p>[侵襲反応制御部門] 研究資金の獲得および研究業績に関し、目標をほぼ達成することができた。</p> <p>[ゲノム解析部門] 当初の目標以上の成果を達成することができた。来年度も研究支援を継続し、本学研究力の底上げに貢献する。</p> <p>[ゲノム編集部門] 計画した目標をほぼ達成することができた。また、大阪大学との共同研究で Science Advances (impact factor:14.1) に論文を発表した。この成果は、読売新聞などに掲載されており、インパクトのある成果を発表することができた。臨床講座との共同研究も論文発表に向け準備を進めており、今後さらに同様の研究を推進していく。</p> <p>[がん生物学部門] 研究室が2年目に突入し、着実に外部資金・人材の獲得と研究成果発表を進め、目標を上回る成果が得られた。</p>	
	<p><b>課題</b></p> <p>[分子遺伝学部門] 今年度の成果をもとに引き続き教育、研究業務の目標を設定する。</p> <p>[生体情報部門] 大型の外部資金獲得を目指すべく、より高度なレベルで研究を推進し、特許取得やより評価の高い国際誌での発表などに繋げていきたい。</p> <p>[モデル動物部門] 外部研究資金の獲得、研究成果発表を継続して行い KMU ブランディングの強化に貢献する。また大学運営・教育においても積極的に努めていく。また、次年度においても既に、新たな疾患モデル動物の開発・導入を目指し準備を進めている。</p> <p>[神経機能部門] 来年度も、本年度に引き続いて、来年度も感覚刺激が誘導する潜在的な生命保護作用の作用機序に関する解明を進めると共に、臨床実用化に向けた共同研究を実施する必要がある。</p> <p>[侵襲反応制御部門] 得られた知見および解析技術等の成果を更に発展させ、学内および学外研究機関との連携を強化する。</p> <p>[ゲノム解析部門] 共同研究課題が増加し、解析担当人員が不足している。</p> <p>[ゲノム編集部門] 大型の研究費獲得を目指したが残念ながら採択に至らなかったため、来年度以降も引き続き、大型の研究費獲得を目指していく。また、他大学との共同研究を進めていくとともに、学生の派遣などを依頼して研究の推進力を上げていく。</p> <p>[がん生物学部門] より研究活動を活発にするため、さらなる外部研究資金の獲得と研究を行う人員の確保を進める必要がある。</p>	

令和4年度内部質保証 目標、計画シート 教育研究推進委員会

委員会・組織名 附属生命医学研究所 総合研究施設

中間責任者②（部長・委員長等）氏名 小林 拓也 施設長

		委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で、文末は「だ・である」調に統一）	教育研究推進委員会 による点検・評価
目標 ・計画		<p>（文字1,000字以内：要望。①新中期計画、②令和4年度事業計画、③令和3年度最終報告課題、④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）、⑤機関別認証評価受審結果の課題、⑥自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載ください。）</p> <p>① 新中期計画 ・なし</p> <p>② 令和4年度事業計画 ⅰ. 実験機器の導入と運用 ⅱ. 次世代シーケンサーの利用促進 Ⅲ. バイオバンクセンターの運営</p> <p>③ 令和3年度最終報告課題 ・なし</p> <p>④ 独自の課題 ⅰ. 研究活動に支障が出ないよう、機器の更新を計画的に実行する。綜研予約システムが新システムとなるため、利用者に混乱が出ないよう利用方法や利便性の周知に務める。（数値目標：新規機器の導入1件、機器の更新3件） ⅱ. 運営費を有効に活用し、次世代シーケンサーの新規利用者の増加を図る。 Ⅲ. バイオバンクセンターの利用規約に則り適正な運用を図る。</p> <p>⑤ 機関別認証評価受審結果の課題 ・なし</p> <p>⑥ 自己点検評価委員会からの指摘事項 ・なし</p>	令和4年5月9日開催委員会にて承認
中間報告		<p>②④ ⅰ. ジェネティックアナライザー3500・AttuneNxT 1laser・AttuneNxT 2laserを導入。予約システムは4月中旬より稼働を開始し改善を重ねながら大きな混乱なく現在に至る。 ⅱ. MiSeqのPCのupgrade・GaneStudio S5の点検修理・新規利用者のための「次世代シーケンサー相談会」開催、以上をいずれも9月以降に予定。 Ⅲ. 現在のところ適正かつ順調に運営されている。</p>	友田学長承認済
最終報告		<p>②④ ⅰ. 中間報告以降、FCM室の運用改定に伴い、今年度導入したAttuneNxT 1laserを4laser, autosampler付きにupgrade、その他ゲル撮影装置Gel Doc G0、高性能密閉式超音波破碎機 Picoruptor、シングルセル解析プラットフォーム Chromium iXが導入され、年度末までに卓上型超遠心機及び質量分析装置 Orbitrapが納入される予定である。利用方法等は、機器説明会等を通じ周知した。 ⅱ. 次世代シーケンサー相談会への参加は3講座、試薬補助は1講座にとどまったが、装置の点検整備は滞りなく行われ、今後の使用に向けて体制を整えた。 Ⅲ. 従来の検体については、適正な運用が行われている。今後の利用に備え、病原微生物を含む検体保管の手続き及び検体の保管場所等の整備を行っているところである。</p>	令和5年3月29日開催委員会にて承認
自己評価	成果	<p>最終報告のとおり、すべて目標は達成されたと考える。 特に機器の更新については大学からの支援もあり、老朽化した装置の更新やFCM室の運用方針の転換に係る装置のupgrade等も順調に行われた。</p>	

	<p>課題 綜研の分電盤は移転以来装置の導入が進んだこともあり、すでに余裕がない状態である。今後新たな装置の導入に備え、分電盤の整備が必要と考える。また来年度以降も、助成金で購入した機器の更新及びメンテナンス費用・購入価格 500 万円以下の機器の更新・BH 室の空調装置の経年劣化への対応などが課題である。導入後 10 年経過する前に更新・オーバーホールなどを計画的に実施することが必要。各種 FCM 装置や質量分析装置などメンテナンスフィーが高額となる装置については、保守契約を締結することが望ましい。</p>	
--	---	--

令和4年度内部質保証 目標、計画シート 教育研究推進委員会

委員会・組織名 動物実験管理委員会

中間責任者②（部長・委員長等）氏名 実験動物飼育共同施設長 大隈和

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で、文末は「だ・である」調に統一）	教育研究推進委員会 による点検・評価
目標 ・計画	<p>（文字1,000字以内：要望。①新中期計画、②令和4年度事業計画、③令和3年度最終報告課題、④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）、⑤機関別認証評価受審結果の課題、⑥自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載ください。）</p> <p>①新中期計画 なし</p> <p>②令和4年度事業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i 施設の改善と感染事故対策による管理体制強化 保有機器等のメンテナンスを定期的に行うとともに、施設課と連携して設備の修繕をしていく。実験動物の感染事故対策については、今後も一層の努力を続けていく。（数値目標：感染事故0を維持する。）</li> <li>ii 施設利用者の指導徹底 密を避け、新規及び登録済の利用者への指導や教育に力を入れていく。</li> </ul> <p>③令和3年度最終報告課題 日常の衛生管理を徹底し、感染事故防止対策の強化を図る。</p> <p>④独自の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i 自己点検評価を基に適正な動物実験環境の整備を更に進める。</li> <li>ii 施設の改善と感染事故対策による管理体制強化 樹立した新型コロナウイルス感染症に対する予防対策や対応方針に基づいて対応する。</li> <li>iii 施設利用の指導徹底 新型コロナウイルス感染症の流行下でも、新規及び既存の利用者への指導や教育に力を入れて行く。</li> <li>iv 令和3年に日本実験動物学会が実施した外部検証における改善事項について検討する。</li> </ul> <p>⑤機関別認証評価受審結果の課題 なし</p> <p>⑥自己点検評価報告書の問題点 なし</p>	令和4年5月9日開催委員会にて承認
中間 報告	<p>④独自の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i 自己点検評価を基に適正な動物実験環境の整備に努めている。</li> <li>ii 施設の改善と感染事故対策による管理体制強化 保有機器のメンテナンスは定期的に行うとともに、現状を把握し適時に施設課と連携しながら修理等を対応している。実験動物の感染事故対策については、一層の努力を続けており、感染事故0を維持している。また樹立した新型コロナウイルス感染症に対する予防対策や対応方針に基づいて対応している。</li> <li>iii 施設利用の指導徹底 新型コロナウイルス感染症対策として、施設利用に関する「動物実験講習会」を対面に加え遠隔接続にでも実施し、確認テストについても「google forms」を利用したオンラインテストで実施した。年間を通じて、常時オンラインで当該講習を受講できる環境を整えており、新規及び既存の利用者への指導や教育の徹底に取り組んでいる。</li> <li>iv 令和3年に日本実験動物学会が実施した外部検証における改善事項について検討し、改善中である。</li> </ul>	友田学長承認済
最終 報告	<p>④独自の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i 自己点検評価を基に適正な動物実験環境の整備に努めた。</li> <li>ii 施設の改善と感染事故対策による管理体制強化 保有機器のメンテナンスは定期的に行うとともに、現状を把握し適時に施設課と連携しながら修理等を対応した。実験動物の感染事故対策については、一層の努力を続けており、感染事故0を維持した。また樹立した新型コロナウイルス感染症に対する予防対策や対応方針に基づいて対応した。</li> <li>iii 施設利用の指導徹底 新型コロナウイルス感染症対策として、施設利用に関する「動物実験講習会」を対面に加え遠隔接続にでも実施し、確認テストについても「google forms」を利用したオンラインテストで実施した。年間を通じて、常時オンラインで当該講習を受講できる環境を整えており、新規及び既存の利用者への指導や教育の徹底に取り組んだ。</li> <li>iv 令和3年に日本実験動物学会が実施した外部検証における改善事項について検討し、改善中である。</li> </ul>	令和5年3月29日開催委員会にて承認

自己 評価	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己点検評価を基に適正な動物実験環境の整備を行うことができた。</li> <li>・保有機器のメンテナンスを定期的に行い、現状を把握し適時に施設課と連携しながら修理等の対応も行うことができた。</li> <li>・実験動物の感染事故対策については、感染事故0を維持することができた。また新型コロナウイルス感染症に対する予防対策や対応方針に基づいた対応もできた。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症対策などとして、年間を通じて施設利用に関するオンライン講習を受講できる環境を整えており、新規及び既存の利用者への指導や教育の徹底に取り組めた。</li> </ul>	
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>i 自己点検評価を基に適正な動物実験環境の整備をさらに進める。</li> <li>ii 施設の修理・改善と感染事故対策による管理体制のさらなる強化に努める。</li> <li>iii 適正な施設利用のために、新規及び既存の利用者への指導や教育の徹底にさらに取り組む。</li> </ul>	



令和4年度内部質保証 目標、計画シート 教育研究推進委員会

委員会・組織名 RI 管理小委員会

中間責任者②（部長・委員長等）氏名 アイソトープ実験施設長 塩島 一郎

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で、文末は「だ・である」調に統一）	教育研究推進委員会 による点検・評価
<p><b>目標・計画</b></p>	<p>（文字1,000字以内：要望。①新中期計画、②令和4年度事業計画、③令和3年度最終報告課題、④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）、⑤機関別認証評価受審結果の課題、⑥自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載ください。）</p> <p>①新中期計画 基礎・臨床研究連携の推進、学部横断的連携による研究シーズの開拓と推進を図る。</p> <p>②令和4年度事業計画</p> <p>i 施設利用促進 核医学治療に関連した動物実験及びイメージング実験の増加傾向にあるため、動物乾燥機の更新、使用許可書の変更許可申請を実施する。法令を遵守し、より安全な作業環境の整備を行う。</p> <p>ii 施設管理体制の強化 分子イメージングエリアは動物の血液や糞尿等によるRI汚染が発生しやすい状況である。物品を整理整頓することで作業スペース及び導線を確保し、汚染事故を未然に防ぐ環境を整える（数値目標：法令規制値を超えるRI汚染を0にする）</p> <p>③令和3年度最終報告課題 施設の利用促進及び施設管理体制の強化を図る。</p> <p>④独自の課題</p> <p>i 耐用年数を経過した機器の計画的な更新を実施する。</p> <p>ii 核医学治療研究を見据えたイメージング及び解析装置の整備を実施する。</p> <p>iii ガンマ線照射装置を均一照射装置から任意な線量にて照射ができるように整備する。</p> <p>iv 動物乾燥機及び放射線監視システムの修繕を実施する。</p> <p>v アルファ線核種による核医学治療研究を実施するにあたりRI実験施設の使用数量変更を実施する。</p> <p>vi RI実験施設ホームページ上の登録申請、教育訓練、小動物イメージング例などの項目を改修する。</p> <p>vii 小動物イメージング例では核医学治療でも必要となる制動X線によるイメージング、アルファ線核種の娘核種を用いたイメージング画像を紹介する。</p> <p>⑤機関別認証評価受審結果の課題 なし</p> <p>⑥自己点検評価委員会からの指摘事項 なし</p>	<p>令和4年5月9日開催委員会にて承認</p>
<p><b>中間報告</b></p>	<p>① 新中期計画 ・X線CTの利用に関する問い合わせはリハビリテーション学科からもあり、イメージング装置の学内需要は増えている。</p> <p>②令和4年度事業計画</p> <p>i 施設利用促進 ・学内需要の多いX線CTが故障中のため修理手続きを進めている。 ・動物用イメージング装置の充実を図るため、学内および他大学での研究装置の配備について調査中である。</p> <p>ii 施設管理体制の強化</p>	<p>友田学長承認済</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・汚染事故を未然に防ぐため RI 専用ゴミ箱の設置や表示を整えた（数値目標：法令規制値を超える RI 汚染を 0 にする）</li> <li>・放射性同位元素等の規制に係わる法律 (RI 規制法) の改正に伴い、第 20 条に記載されている放射線の量、汚染の状況の測定等は「測定に用いる放射線測定器については点検及び構成を 1 年ごとに適切に組み合わせて行うこと」とあり、放射線測定器の計画的な点検と校正を実施するため業者の選定を実施している。</li> <li>・動物実験の増加に伴い、RI 専用動物乾燥機を導入した。</li> <li>・年度末に予定されている定期検査・定期確認に向けて帳簿の確認および施設点検を強化している。</li> <li>・放射性同位元素等の安全取扱、分子イメージングについての研修会に積極的に参加し、最新の法令改正、研究手技および研究装置について知識と技術を深めている。</li> </ul> <p>③令和 3 年度最終報告課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設利用促進を図るため、他施設のイメージング研修会、核医学会などに積極的に参加し、他大学での利用状況およびニーズの調査を行っている。</li> </ul> <p>④独自の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i 耐用年数を経過した機器の計画的な更新を実施する。</li> <li>ii 小動物用の MRI や PET のニーズを調査する予定である。</li> <li>iii 鉛遮蔽容器を導入し、選択的なガンマ線照射について検討中である。</li> <li>iv RI 専用動物乾燥機は導入が完了し、放射線監視システムについても業者と打ち合わせ中である。</li> <li>v 他大学から提供されるアルファ線核種の量が少ないことが判明し、使用数量変更については防護規程などの他の規程変更と同じ時期に実施することとする。</li> <li>vi HP を改修し、レイアウトを見やすくした。その結果、ガンマセルの予約サイトの利用率が増えた。</li> <li>vii X 線 CT が故障中であるため、年度内にイメージングが再開できるように準備を進めている。</li> </ul>	
最終報告	<p>① 新中期計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージング装置、分析装置など非密封放射性同位元素の利用率が増加し、イメージング装置の研究利用についての新規利用が増加し、問い合わせも増加している。</li> <li>・光免疫研究所からの利用実績も増え、横断的な研究者連携が進んでいる。</li> </ul> <p>② 令和 4 年度事業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i 施設利用促進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・X 線 CT の修理が完了したことで、新規講座からの利用者が増加した。</li> </ul> </li> <li>ii 施設管理体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・汚染事故を未然に防ぐため教育訓練の内容を充実させ、さらに OJT による安全取扱を研究者へ実施した。今年度も数値目標である法令規制値を超える RI 汚染を 0 とすることが達成された。</li> <li>・放射性同位元素等の規制に係わる法律 (RI 規制法) の改正に伴い、第 20 条に記載されている放射線の量、汚染の状況の測定等は「測定に用いる放射線測定器については点検及び構成を 1 年ごとに適切に組み合わせて行うこと」について、法が求める基準の保守点検業者を選定し点検と校正を実施した。</li> <li>・動物実験の増加に伴い X 線 CT 装置、ガンマセル、RI 専用動物乾燥装置、麻酔器および呼吸装置などの動物研究用装置の保守点検を実施した。</li> <li>・定期検査・定期確認が実施され合格となった。今年度は非密封放射性同位元素についても検査を受け、より法令順守体制が強化された。</li> </ul> </li> </ul> <p>③ 令和 3 年度最終課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・X 線 CT 装置の修理完了、RI 専用動物乾燥装置の完備、非密封放射性同位元素に関する定期確認・定期検査の合格などにより多様な分野の研究者受け入れ体制が強化された。</li> </ul> <p>④ 独自の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放射線監視システムを整備し、放射線監視の体制を強化し法令順守を徹底している。</li> <li>・動物用 PET 装置のニーズが高い事から私学助成などを利用した装置導入を検討した。次年度以降も研究者のニーズを調査し、積極的に装置更新を進めていく。</li> <li>・ガンマ線照射装置専用の鉛遮蔽容器が導入され、動物への照射線量の管理が可能となった。</li> </ul>	令和 5 年 3 月 29 日 開催委員会にて承認
自己評価	<p>1. アイソトープ実験施設の環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・X 線 CT の修理が完了し、新規講座からの利用者が増加した。</li> <li>・分析室、生化学室などの物品整理、放射線を測定する装置の保守点検などを通じて光免疫研究所などからの新規利用が増加した。</li> </ul>	

	<p>2. 法令順守の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法令改正で求められる放射線計測器の保守点検と校正が可能な業者を選定し、実施した。</li> <li>・定期確認・定期検査に合格し、非密封放射性同位元素の利用についても適切な記録と管理ができていたことが証明された。</li> <li>・防護セキュリティに関する監視カメラを更新し、より一層の密封線源の安全管理が可能となった。</li> </ul> <p>3. アイソトープ実験施設の利用促進に向けての体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・X線CT装置の修理完了、RI専用動物乾燥機の導入、非密封放射性同位元素に関しての定期確認・定期検査の合格により法令順守が徹底された安全なRI実験施設が確保された。</li> </ul>	
課題	<p>1. 施設利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内の利用していない講座、また学外の研究者利用向けに、アイソトープ実験施設を利用するための手続きをについてわかりやすくする必要がある。</li> <li>・学内に対してはアイソトープ実験施設を知ってもらうため教育訓練、特別講師の確保やRI講習会の開催方法などを工夫する必要がある。</li> <li>・学外へ向けて、RIを利用した動物実験が可能な施設としてアイソトープ協会が運営しているホームページに当施設を掲載できるように準備を進める。</li> </ul> <p>2. 機器更新および点検</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老朽化した装置や設備の適正な更新と点検が必要である。高額な機器更新費用および設備なども含めた保守点検についての予算確保を進めなければならない。</li> </ul>	

令和4年度内部質保証 目標、計画シート 教育研究推進委員会

委員会・組織名 研究部（医）

中間責任者②（部長・委員長等）氏名 医学部長 友田 幸一

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で、文末は「だ・である」調に統一）	教育研究推進委員会による点検・評価
<p>目標・計画</p>	<p>（文字1,000字以内：要望。①新中期計画、②令和4年度事業計画、③令和3年度最終報告課題、④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）、⑤機関別認証評価受審結果の課題、⑥自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載ください。）</p> <p>①新中期計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i 国内外から優秀な研究者を確保し、最先端の研究、国際共同研究および産官学連携を推進する。</li> <li>ii 基礎・臨床研究連携の推進、学部横断的連携による研究シーズの開拓と推進を図る。</li> <li>iii 文科省科研費採択件数250件・採択金額4億円、AMED等の研究資金2億円の獲得を目指す。</li> <li>iv 論文数年間150報、TOP10%論文割合10%、国際共著論文割合15%を目指す。</li> <li>v 医学研究倫理に関する教育を推進し、研究不正および公的研究費の管理・監査に関する規定と管理体制の整備を図る。</li> <li>vi 産官学連携を強化するとともに、知的財産の活用を推進し、新たな治療法や医療機器の開発、創薬などを進める。</li> </ul> <p>②令和4年度事業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i 科学研究費助成金を始め外部資金獲得の向上を戦略的・計画的に図る。</li> <li>ii 「難治性免疫・アレルギー疾患研究拠点形成事業」の推進。</li> <li>iii 英語論文の校正及び研究論文の投稿支援の推進。</li> <li>iv 補助金や間接経費を活用して、研究力強化の基盤となる共通機器、設備の充実を図る。</li> <li>v 社会実装を念頭にいた知財活動推進の継続。</li> <li>vi 医療ニーズ・シーズに基づく戦略的社会実装の推進。</li> </ul> <p>③令和3年度最終報告課題</p> <p>科研費等公的資金獲得</p> <p>④独自の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i URAと研究医長会議を軸に基礎医学と臨床医学の研究活動のマッチングを推し進め、科研費等の公的研究費獲得に結びつける。</li> <li>ii 基礎医学と臨床医学の枠を超え、学部内の共同研究を推進するための「KMU研究コンソーシアム」事業を推進する。</li> <li>iii 研究公正等、研究リスクマネジメント体制の整備・充実。</li> </ul> <p>⑤機関別認証評価受審結果の課題</p> <p>なし</p> <p>⑥自己点検評価委員会からの指摘事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i 科学研究費以外の外部資金獲得に関する点検・評価や計画も立てられたい。</li> <li>ii 学内研究助成について全学的な制度として若手研究者の研究環境を充実させ、外部資金獲得促進につながる体制の整備が必要と思われる。</li> <li>iii 研究倫理活動（研究不正防止委員会、eAPRINの受講）について、大学全体として目標・計画を定めて取組みを進めるよう検討されたい。</li> </ul>	<p>令和4年5月9日開催委員会にて承認</p>
<p>中間報告</p>	<p>①新中期計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i 国際化推進センター国際研究部門において、今後順次検討予定。</li> <li>ii 基礎・臨床研究連携の推進を図るため、今年度はこれまで4回（学内4名、学外1名）講師を招き、基礎系・臨床系マッチングに向けた講演会を実施した。</li> <li>iii 令和4年度文科省科研費採択件数（奨励研究、研究スタートアップ含む）246件・採択金額4.2億円であり、現在、AMED等の研究資金の契約額は1.9億円を獲得している。</li> </ul>	<p>友田学長承認済</p>

	<p>iv これまでに、英文校正支援 5 件、論文掲載支援 2 件行った。</p> <p>v 今年度から、公的研究費の管理・監査に関する規程と管理体制の見直しを図り、実施した。また、今年度末を目的に、研究公正等、研究リスクマネジメント体制を整備する。</p> <p>vi 10/24（月）に2022年度医療ニーズ発表会を開催予定、10/12（水）-14（金）に開催されるBioJapan2022に出展、ACT Japanの活動、大阪商工会議所の行うDSAN-J等に積極参加し、企業とのマッチング活動を継続・推進。</p> <p>②令和4年度事業計画</p> <p>i 臨床系教員の科研費採択向上の戦略的な取り組みとして、例年どおり研究医長会議主催の研究計画調査読を実施した（希望者 25 件、実施 24 件）。</p> <p>ii、iii 「難治性免疫・アレルギー疾患研究拠点形成事業」の推進し、これまでに、英文校正支援 5 件、論文掲載支援 2 件行った。</p> <p>iv 総合研究施設と連携して、設備・装置等の使用状況、不具合の程度、修理対応が可否等について調査中。</p> <p>v、vi 10/24（月）に2022年度医療ニーズ発表会を開催予定、10/12（水）-14（金）に開催されるBioJapan2022に出展、ACT Japanの活動、大阪商工会議所の行うDSAN-J等に積極参加し、企業とのマッチング活動を継続・推進。</p> <p>④独自の課題</p> <p>i 基礎医学と臨床医学の研究活動のマッチングを推し進めるため、今年度はこれまで4回（学内4名、学外1名）講師を招き、基礎系・臨床系マッチングに向けた講演会を実施した。また、例年どおり研究医長会議主催の研究計画調査読を実施した（希望者 25 件、実施 24 件）。</p> <p>ii 基礎医学と臨床医学の枠を超え、学部内の共同研究を推進するための「KMU 研究コンソーシアム」事業に16件の応募があり、現在審査中。</p> <p>iii 今年度末を目的に、研究公正等、研究リスクマネジメント体制を整備する。</p> <p>⑤機関別認証評価受審結果の課題</p> <p>なし</p> <p>⑥自己点検評価委員会からの指摘事項</p> <p>i 今後、外部資金獲得戦略会議において検討する必要がある。</p> <p>ii 学内研究助成について、現在医学部と看護学部において学部ごとに実施されており、全学的な制度として実施するのかが検討する必要がある。</p> <p>iii eAPRINの受講については、e-radに研究者登録する際に個別に受講の確認を行っている。また、コンプライアンスについては、「コンプライアンス教育・啓発活動等の実施計画（令和4年度）」を策定し、実施予定。</p>	
<p>最終報告</p>	<p>①新中期計画</p> <p>i 国際特許出願を促進するため、JST知財活用支援事業に3件応募し1件採択、2件不採択であった。</p> <p>ii 基礎・臨床研究連携の推進を図り講師6名（学内5名、学外1名）を招き講演会を実施した。また、基礎・臨床研究連携強化に繋がるバイオバンクセンターの取り組みについて説明会を1回行った。</p> <p>iii 令和4年度文科省科研費採択件数（奨励研究、研究スタートアップ含む）246件・採択金額4.2億円であり、現在、AMED等の研究資金は2.1億円を獲得している。</p> <p>iv これまでに、英文校正支援9件、論文掲載支援3件行った。</p> <p>v 公的研究費の管理・監査体制に関する規程を改正する等、研究公正の体制の整備を行った。</p> <p>vi 10/24（月）に2022年度医療ニーズ発表会を開催し、64件のニーズを収集、対象企業2600社に対してオンラインで説明会を行った。10/12（水）-14（金）に開催されるBioJapan2022に4案件をポスター出展し10企業と面談した。ACT Japanの活動、大阪商工会議所の行うDSAN-J等に積極参加し、合計18社とのマッチング面談を行った。現時点において共同研究等は未成立である。</p> <p>②令和4年度事業計画</p> <p>i 臨床系教員の科研費採択向上の戦略的な取り組みとして例年通り研究医長会議主催の研究計画調査読を実施した（希望者 25 名、実施 24 件）。結果、7件の申請が採択された。また、科研費採択向上に向けURAによる講演会を実施した。</p> <p>ii 当該事業の一環として英文校正9件、論文掲載3件の支援を行った。また、バイオバンクの運営方法改変・広報周知に努め現在までに1192検体を収集した。</p> <p>iii 「難治性免疫・アレルギー疾患研究拠点形成事業」の推進し、これまでに、英文校正支援9件、論文掲載支援3件行った。</p> <p>iv 間接経費等を活用し、研究者のニーズが高い機械装置の導入を行い研究力強化の基盤を形成した。</p> <p>v、vi 10/24（月）に2022年度医療ニーズ発表会を開催、10/12（水）-10/14（金）に開催されるBioJapan2022に出展、ACT Japanの活動、大阪商工会議所の行うDSAN-J等、12/8（木）に開催されるJSTの行う新技術説明会に出展するなど積極的な活動を行い、企業とのマッチング活動を継続・推進した。</p> <p>④独自の課題</p> <p>i 基礎医学と臨床医学の研究活動マッチングを図り講師6名（学内5名、学外1名）を招き講演会を実施した。また、例年どおり研究医長会議主催の研究計画調査読を実施した（希望者 25 名、実施</p>	<p>令和5年3月29日 開催委員会にて承認</p>

		<p>24件)。基礎・臨床研究連携強化に繋がるバイオバンクセンターの取り組みについて説明会を1回行った。</p> <p>ii 基礎医学と臨床医学の枠を超え、学部内の共同研究を推進するための「KMU 研究コンソーシアム」事業に16件の応募があり、6件の研究課題を採択し共同研究を支援した。</p> <p>iii 公的研究費の管理・監査体制に関する規程を改正する等、研究公正の体制の整備を行った。</p> <p>⑤機関別認証評価受審結果の課題</p> <p>なし</p> <p>⑥自己点検評価委員会からの指摘事項</p> <p>i 科研費以外も含めた外部資金獲得拡大のため、文部科学省の次年度の予算案を分析し、外部資金獲得戦略会議にて申請可能な事業の検討、申請に向けた積極的な取り組みを呼び掛けた。</p> <p>ii 医学部の学内研究助成は27件採択（申請件数44件）、看護学部は採択2件（申請2件）。今後全学的な研究助成として実施するかは更なる検討が必要である。</p> <p>iii 研修者登録又は公的研究費に応募する際には研究倫理教育等の受講を必須としている。コンプライアンス教育については年度内に動画研修を実施した。また、啓発活動として研究公正メールマガジンの配信を行った。</p>	
自己評価	成果	<p>① 大阪大学との包括協定に基づく共同研究について、学内公募を行い、5件採択して共同研究契約を締結した。</p> <p>② 文部科学省科学研究費助成事業及びAMED等の研究資金を着実に獲得し、獲得研究費については、新中期計画を達成した。</p> <p>③ 研究公正に関する体制を整備した。</p>	
	課題	<p>① 全学的な学内研究助成についての検討</p> <p>② 質の高い論文の生産性向上に向けた支援の拡充・検討</p> <p>③ 研究の性質（基礎・応用）に応じた研究支援の方策</p> <p>④ 国際化推進センターとの連携体制</p>	

令和4年度内部質保証 目標、計画シート 教育研究推進委員会

委員会・組織名 看護学部・研究

中間責任者②（部長・委員長等）氏名 加藤令子

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で、文末は「だ・である」調に統一）	教育研究推進委員会による点検・評価
目標・計画	<p>① 新中期計画の目標課題、②令和4年度事業計画</p> <p>◆なし</p> <p>③ 令和3年度最終報告での課題</p> <p>◆研究費獲得支援： ・教員の研究費獲得状況の維持に努める ・新人教員への研究計画書作成や外部補助金獲得のセミナーを継続する</p> <p>◆研究推進支援：教員研究推進のための機器の整備をすすめる</p> <p>◆国際研究推進支援： ・国際研究の補助金獲得の進め方などの全教員への学習機会の提供と積極的な共同研究を促す ・国際化推進センター等を通して共同研究が可能な海外大学との教育の交流を目指す</p> <p>④ 独自の実行・改善課題</p> <p>◆領域横断型研究申請の準備をすすめる</p> <p>◆大学院博士後期課程学生の外部資金獲得のための体制構築の準備をすすめる</p> <p>⑤ 機関別認証評価受審結果の改善課題</p> <p>◆大学院学生への学内研究資金を検討する</p> <p>⑥ 自己点検・評価委員会からの指摘事項</p> <p>◆科学研究費以外の外部資金獲得に関する点検・評価を行う</p>	令和4年5月9日開催委員会にて承認
中間報告	<p>③ 令和3年度最終報告での課題</p> <p>◆研究費獲得支援： ・教員の研究費獲得状況の維持に努める</p> <p>    <b>科研費獲得</b>     代表課題 43 件（基盤 (B) 5 件、基盤 (C) 28 件、若手 9 件、研究活動スタート 1 件）、分担課題 35 件（基盤 (B) 7 件、基盤 (C) 27 件、挑戦的（萌芽）1 件）     採択率：令和4年度 84.1%、令和3年度 77.1%      新規採択率：令和4年度 30%、令和3年度 77.1%     採択率は昨年度より上昇しているが、新規採択率の低下がみられるため新規応募者への支援を継続する必要がある。</p> <p>・新人教員への研究計画書作成や外部補助金獲得のセミナーを継続する</p> <p>    8月1日 新人教員等を対象とした以下のFDを開催：参加者 11 名     「科学研究費補助金等への申請について（アウトライン）」教育研究企画室     「競争的資金（科研費）の獲得とステップアップ」教育研究企画室</p> <p>◆研究推進支援：教員研究推進のための機器の整備をすすめる</p> <p>    研究推進に必要な機器について教員へ調査を行い、整備を進める。</p>	友田学長承認済

	<p>◆国際研究推進支援：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際研究の補助金獲得の進め方などの全教員への学習機会の提供と積極的な共同研究を促す。 9月20日 国際研究を進めるためのFDを開催予定、テーマ「国際共同研究の進め方」、講師：坂下玲子教授（兵庫県立大学副学長、WHO 健康開発総合研究センター試問委員）</li> <li>・国際化推進センター等を通して共同研究が可能な海外大学との教育の交流を目指す。 本年度後期の課題として取り組む予定である。</li> </ul> <p>④ 独自の実行・改善課題</p> <p>◆領域横断型研究申請の準備をすすめる。 看護学部の研究資金（KMU看護学部研究コンソーシアム助成）を本年度より開始し、応募のあった2件の研究（シミュレーション教育、OSCE）を採択した。</p> <p>◆大学院博士後期課程学生の外部資金獲得のための体制構築の準備をすすめる。 令和4年度学生2名が外部資金（公益信託山路ふみ子専門看護教育研究助成基金）を獲得した。 学生はフルタイムで学習に専念しているため、現状では研究者番号を持っておらず科研等への申請が出来ない状況にある。体制構築のため研究課や病院看護部と連携し進める。</p> <p>◆教員の英語論文投稿の強化</p> <p>◆大学院博士後期課程学位論文の英語論文化の推進</p> <p>⑤ 機関別認証評価受審結果の改善課題</p> <p>◆大学院学生への学内研究資金を検討する。 博士後期課程学生を対象に1件15万円の学内研究資金貸与を開始した。本年度は応募した2名の学生に貸与した。</p> <p>⑥ 自己点検・評価委員会からの指摘事項</p> <p>◆科学研究費以外の外部資金獲得に関する点検・評価を行う。 研究課と連携し、点検・評価を行う。</p>	
<p>最終報告</p>	<p>③令和3年度最終報告での課題</p> <p>◆研究費獲得支援：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の研究費獲得状況の維持に努める 科研費獲得（令和4年度）新規3件、代表課題：基盤（B）1件（採択）/1件（申請）、基盤（C）1件/7件、若手研究1件/1件、挑戦的研究0件/1件 代表課題43件：基盤（B）5件、基盤（C）27件、若手9件、研究活動スタート1件、国際共同研究強化（B）1件 科研費獲得（令和5年度）新規3件 代表課題：基盤（B）1件（採択）/1件（申請）、基盤（C）2件/13件、挑戦的研究0件/2件 代表課題25件：基盤（B）5件、基盤（C）16件、若手3件、国際共同研究強化（B）1件 採択率：令和5年度64.9%、令和4年度84.1%、令和3年度77.1% 新規採択率：令和5年度18.8%、令和4年度30%、令和3年度77.1% 令和5年年度の採択率は昨年度より約20%低下しており、また、新規採択率の低下も著しいため新規応募者への支援を強化する必要がある。</li> <li>・新入教員や新規応募者への研究計画書作成や外部補助金獲得のセミナーを継続する 8月1日 新入教員等を対象とした以下のFDを開催：参加者11名 「科学研究費補助金等への申請について（アウトライン）」教育研究企画室 「競争的資金（科研費）の獲得とステップアップ」教育研究企画室</li> </ul> <p>◆研究推進支援：教員研究推進のための機器・ソフトの整備をすすめる 臨床研究支援センターで購入したJMP（統計ソフト）を希望する教員18名がインストールし活用している。</p> <p>◆国際研究推進支援：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際研究の補助金獲得の進め方などの全教員への学習機会の提供と積極的な共同研究を今後も促す。</li> </ul>	<p>令和5年3月29日 開催委員会にて承認</p>



	<p>9月20日 国際研究を進めるためのFDを開催予定、テーマ「国際共同研究の進め方」、講師：坂下玲子教授（兵庫県立大学副学長、WHO 健康開発総合研究センター試問委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際化推進センター等を通して共同研究が可能な海外大学との教育の交流を目指す。</li> <li>教員各自が連携している海外の大学との連携の可能性について次年度検に検討予定である。</li> </ul> <p>④独自の実行・改善課題</p> <p>◆領域横断型研究申請の準備をすすめる。</p> <p>看護学部の研究資金（KMU看護学部研究コンソーシアム助成）を本年度より開始し、応募のあった2件の研究（シミュレーション教育、OSCE）を採択し、研究を進め現在報告書作成中である。</p> <p>◆大学院博士後期課程学生の外部資金獲得のための体制構築の準備をすすめる。</p> <p>令和4年度学生2名が外部資金（公益信託山路ふみ子専門看護教育研究助成基金）を獲得した。</p> <p>学生はフルタイムで学習に専念しているため、現状では研究者番号を持っておらず科研等への申請が出来ない状況にある。体制構築のため研究課や病院看護部と情報交換を行ったが、フルタイムの学生が研究者番号を持つことはできないため、公益法人等の研究助成についての情報を提供し研究費獲得に努める必要がある。</p> <p>令和5年度学生2名が外部資金（公益信託山路ふみ子専門看護教育研究助成基金）の申請予定である。</p> <p>◆大学院博士前期課程学生の外部資金獲得</p> <p>2022年度がん研究助成奨励金に応募した博士前期課程学生1名が【看護等（緩和ケア・リハビリ等）の部】で受賞した。</p> <p>◆教員の英文論文投稿の強化</p> <p>教員会等において英文論文投稿の必要性について教員に説明を行った。また、論文作成のための助成を令和5年度より開始する予定である。</p> <p>令和4年度国内で唯一の看護系英文誌に論文1本（原著）が採択された。</p> <p>◆大学院博士後期課程学位論文の英文論文化の推進</p> <p>主指導教員が副論文および博士論文を英文論文として投稿を可能とするための指導を行う。</p> <p>⑤ 機関別認証評価受審結果の改善課題</p> <p>◆大学院学生への学内研究資金を検討する。</p> <p>博士後期課程学生を対象に1件15万円の学内研究資金貸与を開始し、応募した2名の学生に貸与した。2名ともインタビュー調査等の交通費や必要物品等に資金を活用し、研究を継続中である。</p> <p>⑥ 自己点検・評価委員会からの指摘事項</p> <p>◆科学研究費以外の外部資金獲得に関する点検・評価を行う。</p> <p>令和4年度：企業プロジェクト1件（代表）、公益財団法人助成1件（代表）、厚生労働省モデル事業・大阪府委託事業1件（代表）、学会助成1件（分担）</p> <p>令和5年度：地域医療振興助成1件（協働者）申請中</p> <p>科研以外の外部資金獲得数が少なく、今後は各自が情報を獲得し申請・採択が可能となるための支援を行う必要がある。</p>					
自己評価	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="273 1346 341 1570">成果</td> <td data-bbox="341 1346 2389 1570"> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護学部の研究資金（KMU看護学部研究コンソーシアム助成）を本年度より開始したことで、領域を横断したシミュレーション教育とOSCEへの全教員の関心度が高まり、研究成果が期待される。</li> <li>2. 大学院学生への学内研究資金（1件15万円）により、フルタイムの博士後期課程学生が博士論文に取り組むための資金とすることが可能となった。</li> <li>3. 大学院博士前期・後期課程の学生が教員指導の基に積極的に研究費獲得の申請を行い採択された。</li> <li>4. 教授会・教員会で英語論文投稿の重要性の説明・支援について説明を行ったことにより、教員の英語論文投稿への意識が高まった。</li> </ol> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="273 1570 341 1795">課題</td> <td data-bbox="341 1570 2389 1795"> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 科研費等の研究費採択率の向上に努める。</li> <li>2. 教員・大学院学生の英語論文作成の支援を行い、英文ジャーナルへの投稿を促す。</li> <li>3. 国際規模での研究を進めるため、国際推進センター等との連携を強化する。また、教員が連携している海外の大学等との連携を図る。</li> <li>4. 科研費以外の外部資金獲得のための支援を教員、博士前・後期課程学生に行う。</li> </ol> </td> </tr> </table>	成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護学部の研究資金（KMU看護学部研究コンソーシアム助成）を本年度より開始したことで、領域を横断したシミュレーション教育とOSCEへの全教員の関心度が高まり、研究成果が期待される。</li> <li>2. 大学院学生への学内研究資金（1件15万円）により、フルタイムの博士後期課程学生が博士論文に取り組むための資金とすることが可能となった。</li> <li>3. 大学院博士前期・後期課程の学生が教員指導の基に積極的に研究費獲得の申請を行い採択された。</li> <li>4. 教授会・教員会で英語論文投稿の重要性の説明・支援について説明を行ったことにより、教員の英語論文投稿への意識が高まった。</li> </ol>	課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 科研費等の研究費採択率の向上に努める。</li> <li>2. 教員・大学院学生の英語論文作成の支援を行い、英文ジャーナルへの投稿を促す。</li> <li>3. 国際規模での研究を進めるため、国際推進センター等との連携を強化する。また、教員が連携している海外の大学等との連携を図る。</li> <li>4. 科研費以外の外部資金獲得のための支援を教員、博士前・後期課程学生に行う。</li> </ol>	
成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護学部の研究資金（KMU看護学部研究コンソーシアム助成）を本年度より開始したことで、領域を横断したシミュレーション教育とOSCEへの全教員の関心度が高まり、研究成果が期待される。</li> <li>2. 大学院学生への学内研究資金（1件15万円）により、フルタイムの博士後期課程学生が博士論文に取り組むための資金とすることが可能となった。</li> <li>3. 大学院博士前期・後期課程の学生が教員指導の基に積極的に研究費獲得の申請を行い採択された。</li> <li>4. 教授会・教員会で英語論文投稿の重要性の説明・支援について説明を行ったことにより、教員の英語論文投稿への意識が高まった。</li> </ol>					
課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 科研費等の研究費採択率の向上に努める。</li> <li>2. 教員・大学院学生の英語論文作成の支援を行い、英文ジャーナルへの投稿を促す。</li> <li>3. 国際規模での研究を進めるため、国際推進センター等との連携を強化する。また、教員が連携している海外の大学等との連携を図る。</li> <li>4. 科研費以外の外部資金獲得のための支援を教員、博士前・後期課程学生に行う。</li> </ol>					

令和4年度内部質保証 目標、計画シート 教育研究推進委員会

委員会・組織名 研究部会（リハ学部）

中間責任者②（部長・委員長等）氏名 リハビリテーション学部長 飯田寛和

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で、文末は「だ・である」調に統一）	教育研究推進委員会による点検・評価
<p>目標・計画</p>	<p>（文字1,000字以内：要望。①新中期計画、②令和4年度事業計画、③令和3年度最終報告課題、④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）、⑤機関別認証評価受審結果の課題、⑥自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載ください。）</p> <p>① 新中期計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国内外から優秀な研究者を確保し、最先端の研究、国際共同研究および産官学連携を推進する。</li> <li>・ 文科省科研費採択件数250件・採択金額4億円、AMED等の研究資金2億円の獲得を目指す。</li> <li>・ 論文数年間150報、TOP10%論文割合10%、国際共著論文割合15%を目指す。</li> <li>・ 医学研究倫理に関する教育を推進し、研究不正および公的研究費の管理・監査に関する規定と管理体制の整備を図る。</li> </ul> <p>② 令和4年度事業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リハビリテーション学部では、科研費等、公的資金による研究活動の活性化を図る。</li> </ul> <p>③ 令和3年度最終報告課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員個人の研究については、それぞれの専門領域において適切な競争的資金の獲得を目指しているが、他の教員の研究分野や内容について不明な点が多く、共同研究の実施には至らぬ状況である。次年度以降は、リハビリテーション学部教員の研究分野や内容を互いに発表する取り組みをした上で、共同研究の実施を検討する。</li> </ul> <p>④ 独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リハビリテーション学部の研究を活性化し、論文数年間20報、うち国際学術雑誌割合80%を目指す。</li> <li>・ 若手研究者の育成に努め、科研費の申請を始め独立した研究者としての研究活動を開始できるよう教授が中心となり支援を行う。</li> </ul>	<p>令和4年5月9日開催委員会にて承認</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外部資金の公募についての情報提供を実施し、外部資金獲得のメリット等をFD活動で周知した上で、申請に繋げる。</li> <li>・ リハビリテーション学部全教員の科研費申請を目指し、申請率100%を目標とする。</li> <li>・ リハビリテーション学部教員の研究分野を学部内で共有することにより、学科横断の共同研究の実施を検討する。</li> <li>・ 全教員のeAPRIN受講を始め、研究公正に対する取り組みを推進する。</li> </ul> <p>⑤ 機関別認証評価受審結果の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ なし</li> </ul> <p>⑥ 自己点検評価委員会からの指摘事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 科学研究費以外の外部資金獲得に関する点検・評価や計画を実施する。</li> <li>・ 学内研究助成について全学的な制度として若手研究者の研究環境を充実させ、外部資金獲得促進につながる体制の整備が必要と思われる。</li> <li>・ 研究倫理活動（研究不正防止委員会、eAPRINの受講）について、大学全体として目標・計画を定めて取組みを進めるよう検討されたい。</li> </ul>	
<p><b>中間 報告</b></p>	<p>②令和4年度事業計画の実行課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リハビリテーション学部では、研究活動の活性化を図るため、リハビリテーション学部教員の研究内容について発表する会を月に2回程度行い、学科横断の共同研究の可能性について検討している。</li> <li>・ 若手研究者の育成に努め、科研費等の外部資金獲得にあたっての指導や研究費補助など、教授が中心となり若手研究者の支援を行っている。</li> </ul> <p>④ 独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 若手研究者の育成に努め、科研費等の外部資金獲得にあたっての申請書作成指導や研究費補助、研究機器の貸し出しなど、若手研究者の研究活動を推進できるよう教授が中心となり支援を行った。</li> <li>・ リハビリテーション学部全教員の科研費申請を目指し、学科会議やメール通知を通じて、全教員に科研費申請を促した。</li> <li>・ リハビリテーション学部教員の研究内容について、研究発表会等を通して学部内で共有することにより、学科横断の共同研究の可能性を検討した。実際に2022年5月に理学療法学科教員・作業療法学科教員が共同して地域住民の測定会を開催し、本学衛生・公衆衛生学講座および健康科学センターとも連携して地域在住高齢者の健康寿命延伸に向けた学部横断的共同研究を開始した。</li> <li>・ リハビリテーション学部教員に対するFD研修会（4月新人向けに外部資金獲得、6月全教員向けに外部資金獲得）によって外部資金獲得に</li> </ul>	<p>友田学長承認済</p>

	<p>ついて情報提供した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部資金や学内研究助成の公募について、メールやポスター掲示を通して、リハビリテーション学部教員に情報提供を行った。</li> <li>全教員の eAPRIN 受講を始め、研究公正に対する取り組みを推進している。</li> </ul>	
最終報告	<p>②令和4年度事業計画の実行課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リハビリテーション学部全教員の科研費申請を目指し、全教員に科研費の申請を促した。本年度の科研費申請は26件（申請率96%）であった。</li> </ul> <p>④ 独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若手研究者の育成に努め、科研費その他研究助成金の外部資金獲得にあたっての申請書作成指導や研究費補助、研究計画書の指導、研究機器の貸し出しなど、若手研究者の研究活動を推進できるよう教授が中心となり支援を行った。</li> <li>リハビリテーション学部教員に対してFD研修会を7回実施し、外部資金の獲得、特許申請、理学療法学科・作業療法学科専任教員要件等について説明を行った。またFD活動の一環として、上記FD研修会とは別にリハビリテーション学部教員の研究報告会を13回実施し、教員の研究分野・研究内容について学部内で情報共有するとともに、学科横断の共同研究の実施を検討した。</li> </ul>	令和5年3月29日開催委員会にて承認
自己評価	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>科研費について、リハビリテーション学部の申請率は96%と昨年度より科研費申請率は上昇しており、競争的資金獲得への意識は高いといえる。科研費以外の競争的資金についても、RISTEXの「SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム（社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築）」に1名が申請し、加多乃会研究助成では本学部より2名が受賞した（「加多乃賞」および「北西壽子賞」）。さらに、2022年度がん研究助成奨励金にも助教1名が受賞した。</li> <li>リハビリテーション学部教員の国際学術雑誌に受理・掲載された論文数は58本（教員数27名に対する割合：215%）であり、目標値を大きく上回る研究成果をあげた。</li> <li>今年より理学療法学科教員・作業療法学科教員が共同して地域住民の測定会を実施し、医学部（衛生・公衆衛生学講座）や健康科学センターとも連携して地域在住高齢者の健康寿命延伸に向けた学部横断的共同研究を開始した。</li> </ul>	

	<b>課題</b>	・ 地域在住高齢者の健康寿命延伸に向けた学部横断的共同研究は来年度も実施予定であるが、その規模を拡大していく予定であるため、学部を超えた持続可能な共同研究ができるような全学的システム（人事交流、予算等）を構築する必要がある。	
--	-----------	--	--



自己 評価	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 図書委員、教員からの推薦を基に電子ブックを含めた学生用図書の充実を図った。</li> <li>● 電子ジャーナル選定のための新たな指標を管理委員会において審議決定した。</li> <li>● 情報検索に関する講習会を実施して電子コンテンツの有効利用を促した。</li> <li>● 学外から電子ブックを利用する方法をホームページに掲載し、利用する際の手引きとした。</li> </ul>	
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自学自習環境の向上を念頭に館内整備に努める。</li> </ul>	

令和4年度内部質保証 目標、計画シート 教育研究推進委員会

委員会・組織名 外部資金獲得戦略会議

中間責任者②（部長・委員長等）氏名 木梨 達雄

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で、文末は「だ・である」調に統一）	教育研究推進委員会による点検・評価
目標・計画	<p>① 新中期計画 なし</p> <p>② 令和4年度事業計画 ・教育研究企画室及び学内の各関係部署と相互に連携し、私立大学等改革総合支援事業の採択をはじめとする私立大学等経常費補助金、公的機関を軸とした外部資金等の獲得・増大に向けた企画立案を行う。 ・教研企画室の存在・業務内容等が十分に認知されていないようなので、全学的（特に看護・リハ学部）に教授会等で周知を図る。</p> <p>③ 令和3年度最終報告課題 ・全学的な見地に立った機器・装置等リプレースの検討による更なる教研費の執行を促す。</p> <p>④ 独自の課題 ・将来の動向等を見据えた外部資金獲得に関する方針の検討、策定を行う。 ・URAを活用した科研費等の公的研究費の採択増加等の研究支援強化に係る企画立案を行う。 ・文部科学省の研究装置（1/2助成）・設備（2/3助成）等施設整備補助金などの私学助成制度等に関する補助金獲得に向けた企画立案を行う。</p> <p>⑤ 機関別認証評価受審結果の課題 なし</p> <p>⑥ 自己点検評価委員会からの指摘事項 科学研究費以外の外部資金獲得に関する点検・評価や計画も立てられたい。</p>	令和4年5月9日開催委員会にて承認
中間報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私立大学等改革総合支援事業に関し、関係部署と連携し、申請タイプごとの獲得点数増加に向け取り組んだ。タイプ2については次年度の着実な採択に向け、計画的に教授会等で対応を求めていく。</li> <li>・教育研究企画室の業務が認知・活用されるよう、URAによる各種分析資料や研究支援、改革総合支援事業への取組状況等の情報を学内で周知・共有すべく、ホームページのリニューアルを計画中である。</li> <li>・教育研究企画室として、科研費獲得等のFDをリハ学部で2回、看護学部で1回、また、研究トークランチを開催するとともに、URAによる個別支援を積極的に活用するよう促し、支援した。</li> <li>・令和4年度文部科学省直接補助の各事業（研究装置、教育装置、研究設備、教育基盤設備）獲得に向けて、学内の優先順位に基づく申請を行った。</li> <li>・科研費以外の外部資金獲得拡大につなげるため、文部科学省の来年度概算要求事項を分析し、事前の検討を外部資金獲得戦略会議で行う予定である。</li> </ul>	友田学長承認済
最終報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私立大学等改革総合支援事業に関し、関係部署と連携して獲得点数増加に取り組み、「タイプ1」「タイプ4」及び次年度の採択を視野に「タイプ2」の申請を行った。さらに次年度の申請に向けて早期から各タイプの課題把握及び取り組み促進を図った。</li> <li>・教育研究企画室の業務内容、URAの分析資料や研究支援、改革総合支援事業の取組状況等を学内で周知・共有するため、ホームページのリニューアルを行った。</li> <li>・研究トークランチや科研費獲得等のFDを各学部で開催するとともに、URAによる個別支援を積極的に活用するよう促し、支援を行った。</li> <li>・URAにより「科研費」「JST及びAMED等」に関する本学の研究業績と課題等の分析を行い、各学部教授会にて報告を行った。</li> <li>・令和4年度文部科学省の施設設備等補助事業（研究装置、教育装置、研究設備、教育基盤設備）について、学内の優先順位に基づき申請を行った。また次年度以降の需要調査を行い、実施計画調書を作成して文部科学省へ提出した。</li> <li>・令和4年度文部科学省第二次補正予算の医学部等教育・働き方改革支援事業について、関係部署と連携して検討を行い、申請を行った。</li> <li>・令和4年度文部科学省第二次補正予算の地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業について、関係部署と連携して申請準備を進めている。</li> </ul>	令和5年3月29日開催委員会にて承認



		<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度の共創の場形成支援事業（COI-NEXT）の申請に向けて、学内の関係部署や関係教員、他大学や企業等と連携し、企画の取り纏め及びプロジェクト準備会を開催した。</li> <li>・科研費以外も含めた外部資金獲得拡大のため、文部科学省の次年度の予算案を分析し、外部資金獲得戦略会議にて申請可能な事業の検討、申請に向けた積極的な取り組みを呼び掛けた。</li> </ul>	
自己 評価	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私立大学等改革総合支援事業について、2/10 付で結果通知があり、本学は「タイプ1」「タイプ4」が採択された。</li> <li>・教育研究企画室のホームページのリニューアルにより、積極的に様々な情報を発信することが可能となった。また改革総合支援事業の一部設問の加点要件となる情報掲載に活用することができた。</li> <li>・令和4年度文部科学省の施設設備等補助事業について、教育装置1件、教育基盤設備1件が採択された。</li> <li>・令和4年度文部科学省第二次補正予算の医学部等教育・働き方改革支援事業について、医学部共用試験公的化対応事業が採択された。</li> </ul>	
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私立大学等改革総合支援事業について、「タイプ1」の獲得点数は採択ボーダーラインに近接しているため、さらなる改善に向けた取り組み・検討を進める必要がある。また「タイプ2」は令和5年度の着実な採択のために各種取り組みを確実に実行する。</li> <li>・科研費以外の外部資金獲得拡大に向けて状況把握と合わせた支援を行い、教員に申請意欲の拡大を促す。</li> </ul>	

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で、文末は「だ・である」調に統一）	教育研究推進委員会 による点検・評価
<p>目標 ・計画</p>	<p>①新中期計画 産官学連携を強化するとともに、知的財産の活用を推進し、新たな治療法や医療機器の開発、創薬などを進める</p> <p>②令和4年度事業計画</p> <p>(1) 外部資金獲得向上に向けた戦略的・計画的施策推進 AMED 事業等を中心に採択課題の成果に基づく特許出願、産学連携を支援する。</p> <p>(2) 医療ニーズ・シーズに基づく戦略的・計画的社会的実装の推進 ①医療ニーズ発表会開催、②医療ニーズと企業シーズのマッチングイベント（ACTJapan 主催 WISH&amp;SEEDs マッチング会、DSANJ、MDF、バイオジャパン等）への積極的活用</p> <p>(3) 利益相反の審査、第三者との情報交換前の秘密保持契約や共同研究契約の適時締結、学会発表、論文投稿前の適時の特許出願を促進する。</p> <p>(4) 国際的な産学知財活動への拡充検討</p> <p>(5) 看護・リハ学部も含めて全学的に活動を行う。</p> <p>③令和3年度最終報告課題</p> <p>(1) 医療ニーズ、シーズに基づく外的資金獲得、社会的実装の質的、量的拡充</p> <p>(2) 継続的な取り組みとするための産学知財の人員増強および体制づくり</p> <p>④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）</p> <p>(1)外部資金獲得向上に向けた戦略的・計画的施策 知的財産シーズ発掘と特許出願を戦略的にリンクし、外部資金獲得戦略会議と連携し、AMED 本体事業の採択を支援する。 また、拠点大学AMED橋渡し研究戦略的推進プログラムは、全国11拠点の公募情報を把握し、学内に情宣するとともに、対象テーマについては専属コンサルタントと共に内容強化を行い、着実な採択数向上を目指す（5件以上）。</p> <p>(2) 医療ニーズ・シーズに基づく戦略的社会的実装の推進 ①医療ニーズについては、昨年と同様に、全学から医療ニーズの募集を行い、全国2600社以上の製販企業にそのリストおよび医療ニーズ発表会の開催通知を行う。オファーのあった医療ニーズについては、製販企業と面談し、必要に応じて秘密保持契約、共同研究契約を締結し、関西医大発の医療機器（雑品含む）の導出を目指す（医療ニーズ収集100件以上、製販企業との継続検討件数10件以上、上市案件2件以上を目標とする）。 ②医療シーズにおいては、研究対象テーマを、疾病領域とモダリティの観点から整理し、一方で製業企業のWISH（求める医療ニーズ）をアンケート等で把握し、相互のマッチング確率の向上を狙う。さらに、この取り組みを医療機器分野にも展開する。さらに、大阪商工会議所主催のMDFやDSANJ、バイオジャパン等のマッチングの機会を積極的に活用し社会的実装を加速する。 ③上記活動にリンクし、特許出願および権利化、権利放棄を戦略的に推進する。</p> <p>⑤機関別認証評価受審結果の課題 ・大学、学部、研究科それぞれにおいて、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施し、教育研究成果を還元しているといえる。ただし、それぞれの活動は活発であるが、これまでの大学の歴史や立地条件に基づいた大学全体としての戦略を立てて取り組んでいるとはいえず、さらに検討が必要である。</p> <p>⑥自己点検評価委員会からの指摘事項 ・社会連携・社会貢献活動については、学部ごとに実態を把握する体制を構築されたい。また、将来的には、学外からの要望について、大学として一義的に受け付ける窓口を設置することを検討されたい。</p>	<p>令和4年5月9日開 催委員会にて承認</p>

<p>中間 報告</p>	<p>② 令和4年度事業計画</p> <p>(1) 外部資金獲得向上に向けた戦略的・計画的施策推進 産学知財チェックシートで外部資金申請を希望したテーマ(82件)、昨年度AMEDの本体(新規代表案件)や橋渡しプログラムに不採択となったテーマ(26件)、さらには本年度科研費を終了するテーマ(50件)の教員に対して、AMED申請の希望を調査し、申請について情報提供した。現時点でAMEDの本体に9件申請がなされた。橋渡しプログラムについて4件申請の見込みである。</p> <p>(2) 医療ニーズ・シーズに基づく戦略的・計画的社会的実装の推進</p> <p>① 医療ニーズの募集を行い64件が集まった。全国約2600社の製販企業にニーズ情報および医療ニーズ発表会(10月24日に開催決定)の開催通知を同時に行う予定である。</p> <p>② 医療シーズについては、医療機器について学内研究対象テーマを整理し企業等へのアンケートでマッチングをすすめた。発表する企業および教員を決め、10月27日に医療シーズ発表会を開催する予定である。大阪商工会議所主催のMDF(医療機器系の企業とのマッチング会)は、2件申請した。DSANJ(創業系の企業とのマッチング会)は4件を申請し、10社と面談を実施した。結果は、10月頃に連絡がある予定。バイオジャパン(10月12日～14日:横浜パシフィコ)に参加し、展示ブースを設置・オンライン面談を予定している。</p> <p>(3) 利益相反の審査、第三者との情報交換前の秘密保持契約や共同研究契約の適時締結、学会発表、論文投稿前の適時の特許出願を促進する。 秘密保持契約は9件、共同研究契約は29件(変更契約含む)締結した。手術手技研修等に係る利益相反マネジメントに関する運用基準の改正および利益相反に対する監査手順書等について審議した。また、特許出願は、4件出願した。</p> <p>(4) 国際的な産学知財活動への拡充検討 国際特許出願を促進するため、JSTによる知財活用支援事業に2件応募し、1件不採択、1件は審査会待ちである。昨年度採択された3件は現在、外国出願継続中であり、他の3件は、AMED橋渡しプログラムの費用および産学知財の費用より外国出願し継続中である。</p> <p>(5) 看護・リハ学部も含めて全学的に活動を行う。 看護・リハ学部についてもAMEDおよび特許について情報を周知した。リハ学部より橋渡しプログラム1件の予定、特許出願1件の申請があった。</p> <p>③令和3年度最終報告課題</p> <p>(1) 医療ニーズ、シーズに基づく外的資金獲得、社会的実装の質的、量的拡充: 上記(2)に記載</p> <p>(2) 継続的な取り組みとするための産学知財の人員増強および体制づくり: コンサルタント1名を契約をして体制を補強したが、体調不良により活動休止となっている。再度補強について検討中である。一方、現メンバーで課題を共有し、お互いの意見を出し合い解決するようなスキームを実行している。</p> <p>④独自の課題(管理運営部会:目標チャレンジ部目標)</p> <p>(1) 外部資金獲得向上に向けた戦略的・計画的施策 (1)に記載</p> <p>(2) 医療ニーズ・シーズに基づく戦略的社会的実装の推進 (1)～(4)に記載</p>	<p>友田学長承認済</p>
<p>最終 報告</p>	<p>③ 令和4年度事業計画</p> <p>(2) 外部資金獲得向上に向けた戦略的・計画的施策推進 産学知財チェックシートで外部資金申請を希望したテーマ(82件)、昨年度AMEDの本体(新規代表案件)や橋渡しプログラムに不採択となったテーマ(26件)、さらには本年度科研費を終了するテーマ(50件)の教員に対して、AMED申請の希望を調査し、申請について情報提供した。現時点でAMEDの本体に19件申請がなされた。橋渡しプログラムについては22件申請された。結果、AMED本体の採択は0件、橋渡しプログラムは5件採択された。</p> <p>(2) 医療ニーズ・シーズに基づく戦略的・計画的社会的実装の推進</p> <p>① 医療ニーズの募集を行い64件が集まった。全国約2600社の製販企業にニーズ情報および医療ニーズ発表会(10月24日に開催決定)を開催した。</p> <p>② 医療シーズについては、医療機器について学内研究対象テーマを整理し企業等へのアンケートでマッチングをすすめた。発表する企業および教員を決め、10月27日に医療シーズ発表会を開催する予定である。大阪商工会議所主催のMDF(医療機器系の企業とのマッチング会)は、2件申請した。実際の発表は1件行い3社と面談を行った。DSANJ(創業系の企業とのマッチング会)は2022年8月開催分は5件、2023年1月分は4件を申請し、合計15社と面談を実施した。いずれも共同研究には発展しなかった。バイオジャパン(10月12日～14日:横浜パシフィコ)に参加し、展示ブースを設置・オンライン面談10件を実施したが、共同研究にまで繋がらなかった。</p> <p>(3) 利益相反の審査、第三者との情報交換前の秘密保持契約や共同研究契約の適時締結、学会発表、論文投稿前の適時の特許出願を促進する。</p>	<p>令和5年3月29日開 催委員会にて承認</p>

	<p>秘密保持契約は36件（予定含む）、共同研究契約は57件（予定含む、変更契約含む）締結した。手術手技研修等に係る利益相反マネジメントに関する運用基準の改正および利益相反に対する監査手順書等について審議した。また、特許出願は、国内出願16件、PCT出願3件出願した。</p> <p>(4) 国際的な産学知財活動への拡充検討</p> <p>国際特許出願を促進するため、JSTによる知財活用支援事業に3件応募し、1件採択、2件不採択の結果となった。昨年度採択された3件は現在、外国出願継続中であり、他の3件は、AMED橋渡しプログラムの費用および産学知財の費用より外国出願し継続中である。</p> <p>(5) 看護・リハ学部も含めて全学的に活動を行う。</p> <p>看護・リハ学部についてもAMEDおよび特許について情報を周知した。リハ学部より橋渡しプログラム1件申請の協議を行ったがテーマがアリーのため見送った。特許出願1件出願した。</p> <p>③令和3年度最終報告課題</p> <p>(1) 医療ニーズ、シーズに基づく外的資金獲得、社会実装の質的、量的拡充： 上記(2)に記載</p> <p>(2) 継続的な取組みとするための産学知財の人員増強および体制づくり：コンサルタント1名を契約をして体制を補強したが、体調不良により活動休止となっている。</p> <p>一方、現メンバーで課題を共有し、お互いの意見を出し合い解決するようなスキームを実行している。</p> <p>④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）</p> <p>(1) 外部資金獲得向上に向けた戦略的・計画的施策 (1)に記載</p> <p>(2) 医療ニーズ・シーズに基づく戦略的社会実装の推進 (1)～(4)に記載</p>	
自己評価	<p><b>成果</b></p> <p>外部資金獲得としての成果は、①AMED橋渡しプログラム5件採択、NICT案件1件採択された。またクラウドファンディングを利用して1200万円の支援金を得た。また、共同研究契約や社会実装のための教育プログラム（1回生対象）等を実施することにより、私立大学総合改革事業タイプ4が採択（採択大学100校中3位タイ）された。また医療ニーズに基づく社会実装の活動（医療ニーズ発表会実施）により、本年度は医療製品3件が上市された。</p> <p><b>課題</b></p> <p>体制および人材強化による、取組みの定着および強化拡充が急務である。</p>	

令和4年度内部質保証 目標、計画シート 教育研究推進委員会

委員会・組織名 臨床研究支援センター運営委員会

中間責任者②（部長・委員長等）氏名 長沼 誠（センター長、委員長）

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で、文末は「だ・である」調に統一）	教育研究推進委員会 による点検・評価
<p>目標 ・計画</p>	<p>①新中期計画 なし</p> <p>②令和4年度事業計画 ・CRC支援を中心として個別の臨床研究支援を行う</p> <p>③令和3年度最終報告課題 ・ワークショップの内容拡充について検討する ・臨床研究に係る相談件数向上に関する施策を検討する ・臨床研究支援の経費算定表を作成する</p> <p>④独自の課題（目標チャレンジ部目標） ・臨床研究に係る倫理教育を実施する ・臨床研究力の強化・向上につながるワークショップを実施する ・生物統計、プロトコール作成支援等に係る相談会を実施する</p> <p>⑤機関別認証評価受審結果の課題 なし</p> <p>⑥自己点検評価委員会からの指摘事項 なし</p>	<p>令和4年5月9日開 催委員会にて承認</p>
<p>中間 報告</p>	<p>①令和4年度事業計画 令和3年度にCRCが1名増員（計2名）となり、現在9件の研究について、特定臨床研究を中心に支援を行なっている。</p> <p>②令和3年度最終報告課題に対する取り組み 臨床研究におけるモニタリング教育の一環で、第25回臨床研究ワークショップを令和4年11月11日（金）に開催し、各講座のモニタリング担当者および特定臨床研究責任者を対象にモニタリングの知識を深めるための講演会をおこなう予定である。また本年度購入された統計ソフト JUMP の取り扱い説明のワークショップを8月24日に開催するとともに、従来行われている臨床研究ワークショップ（年2回）も継続予定である。臨床研究相談件数の向上については現在研究計画管理部門の相談員を2名から3名に増加するとともにwebでの相談対応を可能にすることにより時間的制約のある研究者からの相談件数を増やすようにしている。</p> <p>③独自の課題 ・令和4年度の臨床研究に係る倫理教育として、令和4年7月1日（水）に第15回臨床研究等倫理講習会を実施し、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針の改訂ポイントについて説明がなされた。今後、令和5年1月23日（月）に第16回臨床研究等倫理講習会を実施する予定である。 ・令和4年度のワークショップは、看護研究シリーズを令和4年9月14日、および、1月26日に実施予定である。上述したワークショップを複数回開催も予定しており、臨床研究の実務担当者に有益な内容を盛り込んだ形になっている。 ・令和4年度の相談会は、31件（令和4年8月17日現在）行った。 ・また当初の計画になかったが、モニタリングの実施状況を把握するために、令和4年7-8月にアンケート形式の実態調査をおこない、本学における現在の臨床研究モニタリングの実施状況や問題点を抽出</p>	<p>友田学長承認済</p>

	し、今後センターが支援できるポイントを検討する予定である。		
最終 報告	<p>① 令和4年度事業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CRCが1名増員（計2名）となったことで、新たに4件の臨床研究の支援を受託し、2件は症例の組み入れを開始した。</li> </ul> <p>② 令和4年度最終報告課題に対する取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究におけるモニタリング教育の強化として、大阪大学医学部附属病院未来医療開発部と共に企画し、各講座のモニタリング担当者および特定臨床研究責任者を対象とする第26回臨床研究ワークショップを令和4年11月11日（金）に開催した。</li> <li>・研究者より要望が多かった、統計解析ソフトJUMPを全学的に導入し、ワークショップを令和4年8月24日（水）に開催した。</li> <li>・10月、医療統計部門を新設し、部門長を臨床研究相談の相談員に加えた。</li> <li>・臨床研究支援の経費算定表を研究課とも連携し、策定した。</li> </ul> <p>③ 独自の課題（目標チャレンジ部目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度、臨床研究に係る倫理教育として、令和4年7月1日（金）に第15回臨床研究等倫理講習会を、令和5年1月23日（月）に第16回臨床研究等倫理講習会を実施した。</li> <li>・看護学部より協力の継続を得て、看護師向けワークショップを令和4年9月14日（水）および令和5年1月26日（木）に年2回開催した。</li> <li>・7-8月、研究責任医師へアンケート形式の実態調査の結果より、研究者が各規制要件を踏まえたモニタリングが効率的に実施できるよう、モニタリング報告書の各種ひな型に取り組んでいる。</li> <li>・倫理審査センターと協同し、倫理指針に基づく、自己点検及び評価に関する手順書（令和4年10月6日施行）を作成した。</li> <li>・臨床研究法に係る附属4病院長許可申請について、現在のメール授受に代えて、真正性の確保ができるシステム導入を提案した。現在、統括部署として、システムの契約締結を行い、附属4病院の実務担当者との連携を図りながら、システム運用の試行と臨床研究法に係る標準業務作業手順書を策定している。</li> </ul>		令和5年3月29日 開催委員会にて承認
	自己 評価	成果	<p>① 令和4年度事業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CRCが計2名となったことで、受託研究数が増加しても、相互に確認できることで倫理的且つ安全性に配慮した支援ができた。</li> </ul> <p>② 令和4年度最終報告課題に対する取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モニタリングのワークショップにおいて、当日は受講対象者以外も多数受講し、モニタリングの理解が深まったと好評を得た。</li> <li>・臨床研究に係る統計ソフトは要望のあった医学部全32講座（附属病院のがんセンター含）および看護学部とリハビリテーション学部に配布し、管理・運営を行っている。</li> <li>・臨床研究支援の経費算定表は令和5年4月1日、施行予定となり、今後、適切なCRC費用の請求が可能となった。</li> </ul> <p>③ 独自の課題（目標チャレンジ部目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究等倫理講習会については、例年通り年2回実施した。</li> <li>・ワークショップも実践的な内容で、年4回開催した。</li> <li>・臨床研究相談について、相談員を増員し、臨床相談内容の拡充を図った。</li> <li>・附属4病院と連携し、臨床研究法に係る体制整備の構築を推進している。</li> </ul>
課題		<p>① 臨床研究に係る倫理教育の定期的な実施</p> <p>② CRC支援を中心とする臨床研究支援体制の強化を検討する</p> <p>③ 臨床研究法に係る附属4病院との連携</p>	

令和4年度内部質保証 目標、計画シート 教育研究推進委員会

委員会・組織名 倫理審査センター運営委員会

中間責任者②（部長・委員長等）氏名  薦 幸治（センター長、委員長）

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で、文末は「だ・である」調に統一）	教育研究推進委員会 による点検・評価
目標 ・計画	<p>①新中期計画 なし</p> <p>②令和4年度事業計画 なし</p> <p>③令和3年度最終報告課題 ・定期報告書提出率向上のための更なる取組みを検討する</p> <p>④独自の課題（目標チャレンジ部目標） ・各種指針改定に対応した各種手順書の改定、また、臨床研究支援センターと協力のしなやかな形の改定を行う ・各種倫理審査を円滑に進めるための審査手順の見直しを行う ・業務効率向上のために、倫理審査申請システムの機能追加を検討する ・多機関共同研究の一括審査ができる体制を検討する ・倫理審査委員会委員に対し、教育・研修を受けるよう促す</p> <p>⑤機関別認証評価受審結果の課題 なし</p> <p>⑥自己点検評価委員会からの指摘事項 なし</p>	令和4年5月9日開 催委員会にて承認
中間 報告	<p>③令和3年度最終報告課題 ・定期報告書未提出者に対する督促時期を昨年度より早期に行っている。8月22日現在、督促数に対し約58%の提出あり。</p> <p>④独自の課題（目標チャレンジ部目標） ・指針改定に伴う各種手順書の改定を行い、医学倫理審査委員会及び附属病院研究倫理審査委員会では承認された。引き続き、総合医療センターおよび香里病院研究倫理審査委員会での審議を依頼中である。（令和4年4月1日施行） ・指針改定に伴うしなやかな形の改訂について、ゲノム計画書の廃止を含め完了した（令和4年8月26日）。今後、倫理審査センターの学内ホームページに掲載する。 ・本学（本院）が代表機関となる多機関共同研究の一括審査について、10月1日から受付が開始できるよう、必要書類の整備、マニュアルの作成、倫理審査申請システムの機能追加を進めている。なお、審査可能な委員会の委員には既に周知済み。また、各種しなやかな形の整備は、指針改定に伴う修正が完了次第着手予定である。研究者には9月の医学部教授会報告後、all usersメールにて周知予定。 ・倫理審査委員会委員に自身の受講歴等を周知し、教育・研修が有効期限切れ又は未受講の委員には受講を促す文書を作成中である。</p>	友田学長承認済
最終 報告	<p>③令和3年度最終報告課題 ・定期報告書未提出者に対する督促時期を昨年度より早期に行い、3月8日現在、督促数に対し約67%の提出があった。</p> <p>④独自の課題（目標チャレンジ部目標）</p>	令和5年3月29日開 催委員会にて承認

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針改定に伴う各種手順書の改定を行った。(令和4年4月1日施行)</li> <li>・ 指針改定に伴うひな形の改訂について、ゲノム計画書の廃止を含め完了した(令和4年8月26日)。一括審査用のひな形も作成し、すべてのひな形について、倫理審査センターの学内ホームページに分かりやすく掲載した。</li> <li>・ 本学(本院)が代表機関となる多機関共同研究の一括審査について、必要書類の整備、マニュアルの作成、倫理審査申請システムの機能追加を行い、10月1日から受付を開始した。3月8日現在、一括審査の申請(承認前・承認後を含む)は5件(附属病院4件、総合医療センター1件)。</li> <li>・ 倫理審査委員会委員に自身の受講歴等を周知し、教育・研修が有効期限切れ又は未受講の委員には受講を促した。学内委員について、3月8日現在、医学・附属病院は全員受講済みであるが、総合医療センターは2名が未受講、香里病院は1名が未受講、2名が有効期限切れとなっている。</li> </ul>	
<p style="text-align: center;"><b>自己 評価</b></p>	<p><b>成 果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>③令和3年度最終報告課題 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期報告書について、昨年度より約10%提出率が増加した。</li> </ul> </li> <li>④独自の課題(目標チャレンジ部目標) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人を対象とする生命科学・医学系指針に関する倫理指針(令和4年3月10日一部改正)に対応した各種手順書の改定、ひな形の改訂をすることができた。</li> <li>・ 本学(本院)が代表機関となる多機関共同研究の一括審査について、特に問題なく10月1日から開始することができ、申請者からの問合せにも対応できている。</li> </ul> </li> </ul>	
	<p><b>課 題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>③令和3年度最終報告課題 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合医療センター(提出率約34%)の提出率向上について検討する。</li> </ul> </li> <li>④独自の課題(目標チャレンジ部目標) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 倫理審査委員会委員の教育・研修について、外部委員も含め要受講者に対し受講を促す。</li> </ul> </li> </ul>	



令和4年度内部質保証 目標、計画シート 教育研究推進委員会

委員会・組織名 iPS・幹細胞研究支援センター運営委員会

中間責任者②（部長・委員長等）氏名 iPS・幹細胞研究支援センター長 六車 恵子

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で、文末は「だ・である」調に統一）	教育研究推進委員会 による点検・評価
目標 ・計画	<p>①新中期計画の実行課題 基礎・臨床研究の連携の推進。公的研究費など外部資金の獲得支援。研究推進による成果の学会・学術論文への発表支援。医学研究倫理に関する教育と研究不正および公的研究費の管理に関する教育。</p> <p>②令和4年度事業計画 国際化の推進（研究力向上による世界レベルでの評価獲得）</p> <p>③令和3年度最終報告課題 施設の狭隘化による、研究推進に必要な解析機器、細胞保管容器の追加設置ができない状態の解消及び利活用の更なる推進、研究の加速化のためのセンターの拡充</p> <p>④独自の課題（目標チャレンジ部目標） 本学における、ヒト多能性幹細胞を用いた研究水準の向上と医学応用の促進を目指し、iPS細胞の作成・培養・分化・保管並びに、ヒト多能性幹細胞研究の推進・支援・人材育成を行う。</p> <p>(1) iPS細胞樹立支援 (2) 細胞品質管理、細胞保管 (3) 研究計画作成支援 (4) 初心者のための培養技術指導 (5) 幹細胞研究のための技術支援 (6) 難病克服のための創薬・病態研究基盤技術開発支援</p> <p>⑤機関別認証評価受審結果の課題 なし</p> <p>⑥自己点検評価委員会からの指摘事項 なし</p>	令和4年5月9日開 催委員会にて承認
中間 報告	<p>① 新中期計画の実行課題 基礎・臨床研究の連携推進のため、研究医長会議において研究支援内容に関する説明講演を行った。 公的研究費など外部資金の獲得支援を実施した。本時点において、外部機関との共同研究内容を応募中2件、民間助成金への応募中2件。 学外機関との共同研究推進により、成果発表を支援した（国内学会2件、国際学会2件、国際学術誌への論文投稿（査読中2報、投稿準備中2報）、総説（国内学術雑誌2報）。 医学研究倫理に関する教育と研究不正および公的研究費の管理に関する教育を実施した。</p> <p>② 令和4年度事業計画 国際化推進として、国際学会での発表・国際学術誌への論文投稿により、研究力向上による世界レベルでの評価獲得を目指した。一部の共同研究機関とは、研究ミーティングを英語で実施した。国内外機関と共同で、AMED-SICORPに応募（1件）。</p> <p>④独自の課題 学外共同研究の相手方機関から大学院生を研究員として受入れ、項目④(1)～(6)を実施した。 本学研究者に対し、公的研究費および学内研究助成金のための研究計画作成を指導し、申請を支援した。 民間企業への技術指導を実施した（1件）。 民間企業との共同研究成果として、特許出願を実施した（1件）。</p>	友田学長承認済
最終 報告	<p>①新中期計画の実行課題 基礎・臨床研究の連携推進として、学内臨床系講座の大学院生を受入れ、学位論文研究の指導（2講座、各1名）を実施した。学内臨床系講座と共同で科研費を申請した。学外臨床系講座と共同で科研費およびAMEDに申請した。医学研究倫理に関する教育と研究不正及び公的研究費の管理に関する教育を実施した。</p> <p>②令和4年度事業計画</p>	

		<p>国際化推進として、英国の大学と共同で AMED-SICORP 事業に応募した（評価点 7 点、平均値 6 点）。</p> <p><b>③令和 3 年度最終報告課題</b></p> <p>施設の狭隘化による、研究推進に必要な解析機器、細胞保管容器の追加設置ができない状態は解消しなかった。利活用の更なる推進と研究の加速化のためのセンターの拡充は、継続して実行すべき課題とした。</p> <p><b>④独自の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 学外共同研究機関から大学院生を研究員として受入れ、項目(1)～(6)を実施した（2機関、計3名）。共同研究機関とは共同研究契約の下、試料・情報の授受を行った。共同研究機関との公的研究費獲得実績は科研費基盤研究（A）1件（継続、本学は分担機関）。学外国立大学と AMED 事業に応募した（2件、いずれも本学が代表機関）。英文原著論文は掲載済み1報、査読中が4報（いずれも学外機関との共同研究成果）。和文総説（編集部依頼）は3報掲載済み。</li> <li>• 企業との共同研究成果を知財として出願した（1件）。</li> <li>• 学内研究者および医学部生に対し、公的研究費および学内研究助成金のための研究計画作成を指導し申請を支援した。科研費基盤研究（C）が1件、科研費基盤研究（B）が2件、学内研究助成 E が2件、研究助成 D2 が1件、RIKEN センター長ファンド1件。</li> <li>• 共同研究機関の協力の下、神経変性疾患患者および血族4症例から新規 iPS 細胞株を作製した。</li> <li>• 民間企業（1件）と技術指導契約を締結、実施した。</li> </ul>	
<p><b>自己評価</b></p>	<p><b>成果</b></p>	<p>独自の課題として掲げた、本学における研究水準の向上と医学応用の促進のため、当センターを活用した研究を積極的に推進し、研究者の要望に沿った研究支援ならびに研究達成のための人材育成を実施できた。学外機関との複数の共同研究を実施し、セミナーや講義を通じ、本学研究者のならびに医学部学生のリサーチマインドの向上に寄与した。学内外共同研究者との研究成果は学術論文として受理または査読中であり、執筆中も数報あり、学術成果のアカデミアならびに社会への還元も行われた。新たに作製した患者由来 iPS 細胞は、新規の原因遺伝子によるものであり難治性疾患の病態解明に画期的な知見を与えるものであり、論文成果を通じ（査読中）、治療法開発に寄与すると考える。事業計画として掲げた再生医療については、AMED 事業の研究支援ならびに共同研究機関施設の協力により、病態モデル動物への細胞移植を検討した（投稿準備中）。本研究成果は学位論文としての取りまとめを予定している。国際化推進については、英国の大学と共同で AMED-SICORP 事業に応募した。残念ながら不採択ではあったが、引き続き共同研究の継続と、外部資金獲得を目指すこととしている。以上の成果より、当センターの掲げた目標・計画を十分に達成できたと評価できる。</p>	
	<p><b>課題</b></p>	<p>施設の狭隘化による、研究推進に必要な解析機器、細胞保管容器の追加設置ができない状態の解消は進めることができなかった。学内外の利用研究者も増えており、それに伴い学術論文・学会発表の成果として現れ始めている。研究加速化のためのセンターの拡充は、継続して実行すべき課題と考える。</p>	

令和4年度内部質保証 目標、計画シート 教育研究推進委員会

委員会・組織名 病態分子イメージングセンター運営委員会

中間責任者②（部長・委員長等）氏名 病態分子イメージングセンター長 中 邨 智 之

		委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で、文末は「だ・である」調に統一）	教育研究推進委員会 による点検・評価
目標 ・計画		<p>（文字1,000字以内：要望。①新中期計画、②令和4年度事業計画、③令和3年度最終報告課題、④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）、⑤機関別認証評価受審結果の課題、⑥自己点検評価委員会からの指摘事項、に分けて記載ください。）</p> <p>① 新中期計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ なし</li> </ul> <p>② 令和4年度事業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ なし</li> </ul> <p>③ 令和3年度最終報告課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機器の老朽化による故障が増えていること、センターとして機器更新用の予算がないことが課題である。</li> </ul> <p>④ 独自の課題</p> <p>本学における、基礎と臨床のトランスレーショナル研究発展のため、神経、がん、代謝の3研究部門と支援部門の研究体制を構築し、分子イメージングシステムを駆使して、患者と動物モデルの疾患の病態を分子から個体まで体系的に解明し、課題とする疾患の診断治療法の開発に結び付ける。</p> <p>(1) 神経部門は神経可塑性・非可塑性、神経変性疾患  (2) がん部門は組織・がん幹細胞の同定、発がん・転移機構  (3) 代謝部門は炎症、血管・組織の加齢変化、動脈硬化、糖尿病の病態解明  (4) 支援部門はプロジェクトの研究推進と若手研究者の人材育成の支援  また、機器の老朽化に故障対応を含めた機器更新の計画検討を行う。</p> <p>⑤ 機関別認証評価受審結果の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ なし</li> </ul> <p>⑥ 自己点検評価委員会からの指摘事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ なし</li> </ul>	令和4年5月9日開催委員会にて承認
中間報告		<p>③ オールインワン顕微鏡（BZ9000）について、各年度の利用頻度の百数十を超えており、老朽化のため、「カメラ内部の液晶フィルターの不具合により、透過照明によるカラー撮影が安定しない。サービス対応期間終了のため修理不可。」などの状況にあり、令和5年度予算要求に向けて、運営委員会において検討する予定。</p>	友田学長承認済
最終報告		<p>神経部門に9講座、がん部門に9講座、代謝部門に12講座が参画して、多数の先進的なイメージング機器と生化学的解析機器等を活用して、研究を遂行している。</p> <p>運営委員会での審議を経て、オールインワン顕微鏡の更新のための費用を令和5年度予算に計上した。</p>	
自己評価	成果	<p>現在研究が進行中であり、令和5年度に規程に基づき2か年の成果を取り纏め公表する予定である。</p>	

	課題	なし	
--	----	----	--

令和4年度内部質保証 目標、計画シート 教育研究推進委員会

委員会・組織名 臨床解剖教育研究センター

中間責任者②（部長・委員長等）氏名 センター長・北田容章

	委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で、文末は「だ・である」調に統一）	教育研究推進委員会 による点検・評価
<p>目標 ・計画</p>	<p>①新中期計画 ・関連事項なし</p> <p>②令和4年度事業計画 ・関連事項なし</p> <p>③令和3年度最終報告課題 ・遺体準備・処理業務について滞りなく進める ・昨年度のご遺体を用いた臨床教育である手術手技研修について、外科学会内・CST推進委員会へ報告を行う ・ご遺体を用いた臨床教育（手術手技研修）の回数および実施診療科数の向上を図る ・可能な限り外部資金調達の可能性を探る ・ご遺体を用いた基礎研究や臨床研究についても振興を図る</p> <p>④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標）</p> <p>1. ご遺体を用いた医師及び歯科医師の解剖学の再教育、医療技術の習得並びに臨床医学研究（以下「臨床医学教育研究」という。）を円滑かつ適正に実施する場を提供する。</p> <p>2. センターは、本学における手術手技研修組織として、ご遺体を使用した手術手技研修の企画等に関する支援、実施時期の調整、ご遺体の準備と調整及び実施等を行い手術手技の向上並びに臨床医学研究の発展に寄与する。</p> <p>3. センターは、関西医科大学遺体使用の臨床医学教育・研究専門委員会、本学白菊会並びにその他関係部署等と連携して、次に掲げる業務を行う。</p> <p>(1) 臨床医学教育研究に係る遺体準備・処理業務及び遺体情報管理に関すること</p> <p>(2) 臨床医学教育研究の自己評価に関すること</p> <p>(3) 臨床医学教育研究の指導監督に関すること</p> <p>(4) 臨床医学教育研究の統括に関すること</p> <p>(5) 日本外科学会内設置 CST 推進委員会への報告等連絡調整に関すること</p> <p>(6) その他センターの目的を達成するために必要な事項に関すること</p> <p>⑤機関別認証評価受審結果の課題 ・特になし</p> <p>⑥自己点検評価委員会からの指摘事項 ・特になし</p>	<p>令和4年5月9日開催委員会にて承認</p>

<p>中間 報告</p>	<p>①独自の課題（目標チャレンジ部目標）          今年度は設立3年目にあたる。下記業務について取扱っている。          (1) 臨床医学教育研究に係る遺体準備・処理業務及び遺体情報管理に関すること          昨年度の手術手技研修に用いたご遺体について、火葬の手続きを行った。          (2) 臨床医学教育研究の自己評価に関すること          (3) 臨床医学教育研究の指導監督に関すること          (4) 臨床医学教育研究の統括に関すること          今年度研修の案内を6診療科主任教授に送付し、うち4診療科より今年度開催に関する返答を得た。この4診療科の研修開催に向け、連絡・調整を行った。          (5) 日本外科学会内設置 CST 推進委員会への報告等連絡調整に関すること          昨年度行った手術手技研修について、外科学会内 CST 推進委員会に報告を行った。          (6) その他センターの目的を達成するために必要な事項に関すること          厚生労働省・実践的な手術手技向上研修事業事業委託先公募に応募した。</p> <p>②事業計画の実行課題          昨年度は整形外科学講座による研修11件、外科学講座による研修1件であったが、今年度はこれを上回る件数の研修開催を目指す。年度当初は3件の研修を執り行う予定となっていたが、現時点では4診療科より開催意向の表明があった。</p> <p>③自己点検評価報告書の問題点          なし</p>	<p>友田学長承認済</p>
<p>最終 報告</p>	<p>①独自の課題（目標チャレンジ部目標）          今年度は設立3年目にあたる。引き続き、下記業務について取扱っている。          (1) 臨床医学教育研究に係る遺体準備・処理業務及び遺体情報管理に関すること          現在までに今年度使用予定遺体9体分につき Thiel 法固定を行い、ご遺体を維持・管理している。すべてのご遺体は下記診療科研修にて既に用いている。          (2) 臨床医学教育研究の自己評価に関すること          (2) 臨床医学教育研究の指導監督に関すること          現在までに、2023年1月14日(土)～15日(日)、2月25日(土)～26(日)、3月5日(日)、2月24日(金)に加え3月10日(金)～12日(日)の日程にて、それぞれ耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座、麻酔科学講座、外科学講座、整形外科学講座の研修が行われた。臨床解剖教育研究センターは、これら研修の監督業務を執り行った。各回にて他診療科からの見学を行っており、現時点で、呼吸器外科学等の講座の教員が見学した。解剖学講座よりご遺体を用いた基礎研究に関する研究計画が提出され、現在指導監督を行っている。          (4) 臨床医学教育研究の統括に関すること          今年度研修の案内を6診療科主任教授に送付し、うち4診療科より今年度開催に関する返答を得た。この4診療科の研修開催に向け、倫理審査申請書・研究計画書・オプトアウト文書等の文書作成をサポートし、いずれの計画も倫理委員会による承認を得た。上記のとおり、既に15件分の研修の統括を行った。          (5) 日本外科学会内設置 CST 推進委員会への報告等連絡調整に関すること          昨年度行った整形外科研修、外科学講座研修につき、5月に報告を行った。今年度は4診療科15件分の研修を行うこととなるため、5月までに CST 推進委員会への報告を行う予定である。          (6) その他センターの目的を達成するために必要な事項に関すること          厚生労働省より「実践的な手術手技向上研修事業」の事業委託先公募がなされたため、2022年6月にこれに応募した。8月下旬に不採択の返答があった。今後も積極的に外部資金調達を試みる予定としている。</p> <p>②事業計画の実行課題          昨年度は整形外科学講座と外科学講座による研修11件であったが、今年度はこれを上回る15件の研修を行った。</p> <p>③自己点検評価報告書の問題点          なし</p>	
<p>自己 評価</p>	<p>成 果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年度のご遺体を用いた臨床教育である手術手技研修（11件）について、外科学会内・CST 推進委員会へ報告を行った。</li> <li>・ 厚生労働省「実践的な手術手技向上研修事業」の事業委託先公募に応募した（結果は非採択）。</li> <li>・ ご遺体を用いた臨床教育である手術手技研修に関し、昨年度11件を上回る15件の研修を統括した。</li> <li>・ ご遺体を用いた基礎研究1件の指導監督を行っており、評価研究1件の準備も進めている。</li> </ul>	

	課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・来年度以降も遺体準備・処理業務について滞りなく進めるとともに、ご遺体を用いた臨床教育（手術手技研修）の回数および実施診療科数の増加を図る。</li><li>・可能な限り外部資金調達の可能性を探る。</li><li>・ご遺体を用いた基礎研究や臨床研究についても振興を図る。</li></ul>	
--	----	--	--

令和4年度内部質保証 目標、計画シート 教育研究推進委員会

委員会・組織名 光免疫医学研究所運営委員会

中間責任者②（部長・委員長等）氏名 光免疫医学研究所所長 小林久隆

		委員会・組織が策定・作成（「箇条書き」で、文末は「だ・である」調に統一）	教育研究推進委員会 による点検・評価
目標 ・計画		<p>①新中期計画 光免疫療法に関する基礎研究と臨床治療のサポートを行う研究所として、光免疫療法研究に必要な最新の機器を整備し、日本における光免疫療法の中心研究拠点となる研究所を目指す。</p> <p>②令和4年度事業計画</p> <p>(1) 光免疫療法に関する基礎的検討を行う基盤開発部門、光免疫療法に伴い起こる免疫反応についての詳細な解析を行う免疫部門、光免疫療法に伴う生体の変化について詳細な解析を行う腫瘍病理学部門、の合計3部門を設置する。限られたスタッフで開所する。</p> <p>(2) 適切な人材の確保を進める。</p> <p>(3) 研究所の設備及び機器のさらなる拡充を行い、光免疫療法の研究拠点としてふさわしい環境を構築する。</p> <p>(4) 外部（大学、研究所および民間企業）との共同研究を積極的に推進する。</p> <p>③令和3年度最終報告課題 なし</p> <p>④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標） 光免疫療法に関する研究を推進し、外部資金の獲得および成果の報告を行う。（数値目標：外部資金新規獲得2件、国際誌への5報以上の発表を目指す）</p> <p>⑤機関別認証評価受審結果の課題 なし</p> <p>⑥自己点検評価委員会からの指摘事項 なし</p>	令和4年5月9日開 催委員会にて承認
中間 報告		<p>②令和4年度事業計画</p> <p>4月1日に研究所を開所し、研究部門として基盤開発部門および免疫部門の2部門が設置された。</p> <p>研究所の設備及び機器のさらなる拡充を行った。</p> <p>外部との共同研究を推進した。</p>	友田学長承認済
最終 報告		<p>②令和4年度事業計画</p> <p>(1) 4月1日に研究所を開所し、研究部門として基盤開発部門および免疫部門の2部門が設置された。</p> <p>(2) 研究所のスタッフとして、来年度から雇用となる多くの人材を確保した。</p> <p>(3) 研究所の設備及び機器のさらなる拡充を行い、光免疫療法研究に関する最新の機器を揃えることができた。</p> <p>(4) 外部との共同研究を推進した。</p> <p>④独自の課題（管理運営部会：目標チャレンジ部目標） 外部資金として科研費2件を獲得した。</p>	
自己 評価	成果	計画した目標の多くを達成することができた。	



	課題	さらなる研究環境の整備および人材の確保を行う。 研究を推進し、外部資金の獲得および成果の報告を行う。	